

社会情報学科専門科目（令和7年度入学生用）

	科目 コード	授業 コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	摘要	開放
基礎 科目	40010		行動科学概論	②	30	1	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
	40020		情報社会論	②	30	1	後期	中川 恵		教養
	40031		ウェブデザイン入門	②	30	1	後期	()		
	40040		統計学入門	②	30	1	後期	山田 忍		教養
人間 社会と 心理	40110		社会学	2	30	1	前期	中川 恵	[日]と合同 [日]は専門単位 [国・英]は教養単位	教養
	40120		社会ネットワーク論	2	30	1・2	前期	滝口 克典		教養
	40135		地域社会学	2	30	1・2	後期	中川 恵		教養
			社会調査演習	2	30	2	前期	中川 恵		
	40150		環境社会学	2	30	1・2	後期	中川 恵		教養
	40170		社会心理学	2	30	1	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
	40180		集合行動論	2	30	1	後期	亀ヶ谷雅彦		教養
			社会心理学演習	2	30	2	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
	40200		政治心理学	2	30	1・2	後期	亀ヶ谷雅彦		教養
			認知心理学	2	30	2	後期	石崎 毅		
経済と 経営 分析	40310		経済学入門	2	30	1・2	前期	山田 忍	[日]は専門単位 [国・英]は教養単位 連続2時限の受講をもって1回の 授業となる 後期開講（2～3月）	教養
	40320		ファイナンス論	2	30	1・2	後期	山田 忍		教養
			ファイナンス演習	2	30	2	前期	山田 忍		
	40340		簿記会計演習	4	60	1・2	前期	貴田岡 信		教養
	40350		電子商取引概論	2	30	1・2	前期	董 彦文		
	40360		情報セキュリティ論	2	30	1・2	後期	董 彦文		
	40370		経営学入門	2	30	1・2	前期	西平 直史		教養
	40381		経営情報論（D X論）	2	30	1・2	後期	西平 直史		
	40392		経営管理論	2	30	1	集中	畠山 健太		
			経営情報演習	2	30	2	前期	西平 直史		
メディア 表現と 情報	40511		メディア文化論	2	30	1・2	前期	小池 隆太	[国]と合同 「メディア表現論」を既修である ことが望ましい。 本年度開講せず 本年度開講せず 本年度開講せず	教養
	40521		メディア表現論	2	30	1・2	後期	小池 隆太		教養
	40531		視覚文化論	2	30	1・2	後期	小池 隆太		教養
			メディア制作演習	2	30	2	前期	小池 隆太		教養
	40550		メディアリテラシー	2	30	1・2	後期	亀ヶ谷雅彦		教養
			応用データ分析	2	30	1・2	後期	—		教養
			情報コミュニケーション	2	30	1	後期	—		教養
			データ分析入門	2	30	1・2	前期	—		教養
	40590		データベース概論	2	30	1	後期	西川 友子		
			プログラミング1	2	30	2	前期	西川 友子		
			プログラミング2	2	30	2	後期	西川 友子		
	40620		I T概論	2	30	1・2	前期	西川 友子		教養
基礎 ゼミ	40710		基礎ゼミ一	2	30	1	後期	中川 恵	本年度開講せず	
	40720		基礎ゼミ二	2	30	1	後期	亀ヶ谷雅彦		
	40730		基礎ゼミ三	2	30	1	後期	高浜 快斗		
	40740		基礎ゼミ四	2	30	1	後期	山田 忍		
	40750		基礎ゼミ五	2	30	1	後期	小池 隆太		
			基礎ゼミ六	2	30	1	後期	—		
	40770		基礎ゼミ七	2	30	1	後期	西川 友子		
専門 ゼミ			専門ゼミ一	4	60	2	通年	中川 恵		
			専門ゼミ二	4	60	2	通年	亀ヶ谷雅彦		
			専門ゼミ三	4	60	2	通年	高浜 快斗		
			専門ゼミ四	4	60	2	通年	山田 忍		
			専門ゼミ五	4	60	2	通年	小池 隆太		
			専門ゼミ六	4	60	2	通年	—		
			専門ゼミ七	4	60	2	通年	西川 友子		
			専門ゼミ八	4	60	2	通年	石崎 毅		
			専門ゼミ九	4	60	2	通年	村井 友樹		
			卒業研究	②		2				

(注)・「○数字」は必修単位数、「{ }○数字」は選択必修単位数

社会情報学科専門科目（令和6年度入学生用）

	科目 コード	授業 コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	摘要	開放
基礎 科目			行動科学概論	②	30	1	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
			情報社会論	②	30	1	後期	中川 恵		教養
			ウェブデザイン入門	②	30	1	前期	伊豆田義人		
			統計学入門	②	30	1	後期	栗原 秀幸		教養
人間社会と心理	40120		社会学	2	30	1	前期	中川 恵	[日]と合同	教養
			社会ネットワーク論	2	30	1・2	前期	滝口 克典		教養
	40135		地域社会学	2	30	1・2	後期	中川 恵		教養
	40140		社会調査演習	2	30	2	前期	中川 恵		
	40150		環境社会学	2	30	1・2	後期	中川 恵	[日]は専門単位 [国・英]は教養単位	教養
			社会心理学	2	30	1	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
			集合行動論	2	30	1	後期	亀ヶ谷雅彦		教養
	40190		社会心理学演習	2	30	2	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
	40200		政治心理学	2	30	1・2	後期	亀ヶ谷雅彦		教養
	40210		認知心理学	2	30	2	後期	石崎 毅		
経済と経営分析	40310		経済学入門	2	30	1・2	前期	山田 忍	[日]は専門単位 [国・英]は教養単位	教養
	40320		ファイナンス論	2	30	1・2	後期	山田 忍		教養
	40330		ファイナンス演習	2	30	2	前期	山田 忍	連続2時限の受講をもって1回の授業となる	教養
	40340		簿記会計演習	4	60	1・2	前期	貴田岡 信		
	40350		電子商取引概論	2	30	1・2	前期	董 彦文		教養
	40360		情報セキュリティ論	2	30	1・2	後期	董 彦文		
	40370		経営学入門	2	30	1・2	前期	西平 直史		
	40381		経営情報論（DX論）	2	30	1・2	後期	西平 直史		
			経営管理論	2	30	1	集中	畠山 健太		
	40400		経営情報演習	2	30	2	前期	西平 直史		
メディア表現と情報	40511		メディア文化論	2	30	1・2	前期	小池 隆太	[国]と合同 「メディア表現論」を既修であることが望ましい。	教養
	40521		メディア表現論	2	30	1・2	後期	小池 隆太		教養
	40531		視覚文化論	2	30	1・2	後期	小池 隆太		教養
	40540		メディア制作演習	2	30	2	前期	小池 隆太		教養
	40550		メディアリテラシー	2	30	1・2	後期	亀ヶ谷雅彦	本年度開講せず	教養
			応用データ分析	2	30	1・2	後期	—		教養
			情報コミュニケーション	2	30	1	後期	—	本年度開講せず	教養
			データ分析入門	2	30	1・2	前期	—		教養
			データベース概論	2	30	1	後期	西川 友子		
	40613		プログラミング1	2	30	2	前期	西川 友子		
	40614		プログラミング2	2	30	2	後期	西川 友子		
	40620		IT概論	2	30	1・2	前期	西川 友子		教養
基礎ゼミ			基礎ゼミ一	2	30	1	後期	中川 恵		
			基礎ゼミ二	2	30	1	後期	亀ヶ谷雅彦		
			基礎ゼミ三	2	30	1	後期	—		
			基礎ゼミ四	2	30	1	後期	山田 忍		
			基礎ゼミ五	2	30	1	後期	小池 隆太		
			基礎ゼミ六	2	30	1	後期	伊豆田義人		
			基礎ゼミ七	2	30	1	後期	西川 友子		
専門ゼミ	40810		専門ゼミ一	4	60	2	通年	中川 恵	本年度開講せず	
	40820		専門ゼミ二	4	60	2	通年	亀ヶ谷雅彦		
			専門ゼミ三	4	60	2	通年	高浜 快斗		
	40840		専門ゼミ四	4	60	2	通年	山田 忍	本年度開講せず	
	40850		専門ゼミ五	4	60	2	通年	小池 隆太		
			専門ゼミ六	4	60	2	通年	—		
	40870		専門ゼミ七	4	60	2	通年	西川 友子		
	40880		専門ゼミ八	4	60	2	通年	石崎 毅		
	40890		専門ゼミ九	4	60	2	通年	村井 友樹		
	40910		卒業研究	②		2				

(注)・「○数字」は必修単位数、「□○数字」は選択必修単位数

講義科目名称： 行動科学概論（40010）

授業コード： 40010

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	1. 行動科学の実証的研究法について理解することができる。 2. スタディスキル（大学での勉強の仕方）を習得することができる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	はじめに
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	行動科学とは何か
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	条件付け
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	文献を探そう
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	レポートを書こう
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	発表しよう
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	ディスカッションをしよう
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	実証的研究法を知ろう
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	フィールドワークをしよう
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	アンケートを書こう
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	統計ソフトを使ってみよう（操作方法について）
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	統計ソフトを使ってみよう（分析方法について）
	フリー欄	
	第13回	

	タイトル	実験をしよう（記憶の実験）
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	実験をしよう（結果の分析と解釈）
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	研究計画を書こう
	フリー欄	
授業概要	行動科学の考え方、特にデータを集め、仮説を立て、分析するといった実証的研究法に焦点を当てて講義を行う。また、文献の探し方やレポートの書き方といった「スタディスキル（大学での勉強の仕方）」についても説明する。Teamsを使って課題を出すので、作業をしながら主体的に学んでほしい。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。	
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	社会科学や心理学の分野で卒業研究をまとめたい人や、編入先の大学や会社などで実験、アンケート調査、商品テストなどに携わりたい人に、この科目は役立つと思います。なお、データの分析法についてさらに深く学びたい人は「統計学入門」「社会調査演習」「情報処理演習Ⅱ」などの科目も履修するといいいでしょう。	
評価方法	レポート・課題（70％）、授業への参加度（30％）	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 情報社会論（40020）

授業コード： 40020

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
中川 恵			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）	聴講生開講科目※	※一般の男女が聴講する場合有	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	メディアと社会のありかたについて社会学の基礎的な用語と考え方を理解し、自分の考えを叙述・説明する。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス（学習目標と方針の共有／Teamsの基本動作確認／情報科目との接合点）
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	【読解】メディア社会論のために（1章）
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	【読解】ネットワーク化の来歴（2章）／モバイル・デバイスの来歴（3章）
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	【読解】コンテンツ・メディアの来歴（4章）
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	1部　メディアの来歴—流動化（過去編）　内容要約・考察・関連文献の紹介
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	【読解】ソーシャル・メディアの功罪（5章）／デジタル・コンテンツの功罪（6章）
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	【読解】ネット広告の功罪（7章）／　ユビキタス&ビッグデータの功罪（8章）
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	2部　メディア社会の功罪—個人化（現在編）　内容要約・考察・関連文献の紹介
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	【読解】変わりゆくリアリティ（9章）／変わりゆくコンテンツ（10章）
	フリー欄	
	第10回	
タイトル	【読解】変わりゆくテクノロジー（11章）	
フリー欄		
第11回		
タイトル	3部　メディア社会の構想—再帰化（未来編）　内容要約・考察・関連文献の紹介	
フリー欄		

	第12回	
	タイトル	【読解】人類社会としての「情報社会」——「近代社会の学」から「人類社会の学」へ 前編
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	【読解】人類社会としての「情報社会」——「近代社会の学」から「人類社会の学」へ 後編
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	【読解】生成系AI、DX、リアルとヴァーチャルに関連した課題文献の解説（課題文献を調整中）
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	【読解】【読解】生成系AI、DX、リアルとヴァーチャルに関連した課題文献の解説（課題文献を調整中）
	フリー欄	
授業概要	講義形式を採用し、テキストに沿ってすすめます。	
実務経験及び授業の内容	まず、該当の章について講師が解説をおこないます。 次に、受講生から関心を持った話題や疑問点をTeamsにて集めます。 最後に、疑問点に関する補足説明や受講生の関心を共有します。	
時間外学習	60分程度 例) テキストの該当箇所を事前に読み、理解できなかった箇所について調べる。 例) 質問をリストアップする。 例) 関心のある論文・書籍を探して入手する。 例) 論文・書籍を読み、内容を理解して要約文を作成する。	
テキスト	辻泉・南田勝也・土橋臣吾編、2018、『メディア社会論』有斐閣ストゥディア	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	・課題データ：本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用して課題や質問の提出をおこないます。ガイダンスにて利用方法を確認してください。 ・出席：出席状況は各回の講義内にて確認します。公欠の扱いは内規に準じます。この講義では就職・編入試験関連の欠席は公欠に含みません。 ・発表：講義内にて用語理解や参照した論文・書籍について、講義内に発表を求める場合があります。その場合、事前に日程と内容を告知します。 ・講義データ：講義内容の一部はTeamsにてアーカイブ保存することがあります。講義最終日まで視聴可能とし、以後は予告なく削除します。 ・計画の変更：授業計画に示したテーマと進度は、受講生の理解度合いや関心によって若干変更することがあります。	
評価方法	内容理解の課題（60%）、レポート課題（30%）、各回の参加状況（10%）	
参考文献		
備考		

講義科目名称： ウェブデザイン入門（40031）

授業コード： 40031

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
未定			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義・演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	授業の到達目標は以下の通り： 1) ウェブページを記述するための言語であるHTML（Hyper Text Markup Language）について理解できる 2) HTMLを用いたウェブページの制作ができる 3) CSS（Cascading Style Sheets）を用いたウェブページのデザインができる 4) テーマを設定してのウェブサイトの構造的な制作ができる	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス
	フリー欄	※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合があります。
	第2回	
	タイトル	インターネット概論
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	ネットワーク技術とウェブページの仕組み、HTMLの基礎
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	HTMLのコーディング技術
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	CSSの基礎とコーディング技術
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	HTMLとCSSとの連携によるウェブページ制作
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	画像・マルチメディアデータ・スクリプトの活用
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	ウェブ標準について
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	ページデザインとレイアウト
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	インフォメーションデザイン
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	インターフェースデザインとユーザビリティ
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	アクセシビリティとユニバーサルデザイン

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	ウェブサイトの設計・構築
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	期末課題・プロジェクトについて
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	期末課題の制作
	フリー欄	
授業概要	授業ではHTMLならびにCSSについて解説し、基本的には授業内容に即した課題が毎回課されることになります。実践的なスキルの修得を目的としていますので、授業が進むにつれて課題内容も問題解決型・プロジェクト型にシフトしていくことになります。最終的には、何らかのテーマに沿って、デザインを含めたウェブサイト全体の制作を各自行なってもらうことになります。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	授業での解説内容に即した課題に宿題として取り組んでももらうことになります。それ以外にさまざまなウェブサイトを観察し、長短所を概評することも必要になるでしょう。最終課題においては、各自で使用する画像データや文章などを準備したうえで取り組んでもらいます。	
テキスト	必要に応じてプリントを配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	本授業は、ウェブデザイン技能検定3級のレベルに準拠した内容ですが、技術的にはそれ以上のスキル修得を目指したいと考えています。現代における情報発信スキルとしてのウェブサイトの制作・デザインは、企業や自治体などのコミュニケーションを担うカギとなる技術です。ウェブページを閲覧するだけの立場から、制作する・発信するという立場へのステップアップとしてとらえてください。	
評価方法	授業での課題提出75%、最終課題の提出25%とします。	
参考文献		
備考	※本科目の講義計画は、担当教員が決定し次第更新しますので、学務システムからご確認ください。	

講義科目名称： 統計学入門（40040）

授業コード： 40040

英文科目名称： Statistics for beginners

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
山田 忍			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	現代社会においては、様々なデータを正しく扱う知識や能力が求められている。本講義においては、社会科学分野において利用される統計学の基礎的知識と考え方を学び、データの読み方や利用方法を重視し、統計的思考を身につけることを目的とする。具体的な到達目標は、次の通りである。①記述統計の基本的な知識を理解し分析することができる。②推測統計の基礎を学び、その分析過程を述べることができる。③実社会において利用されるデータについて説明ができる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス、統計的な考え方、標本調査
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	データの種類のまとめ方（１）：データの種類と代表値
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	データの種類のまとめ方（２）：分散と標準偏差、変動係数
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	データの種類のまとめ方（３）：クロス集計表
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	データの種類のまとめ方（４）：図と表の利用
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	データの種類のまとめ方（５）：代表的な確率分布
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	2種類のデータの関連性（１）：散布図と相関
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	2種類のデータの関連性（２）：相関係数
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	2種類のデータの関連性（３）：単回帰分析と決定係数
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	2種類のデータの関連性（４）：重回帰分析
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	検定の基礎（１）：推測と検定
	フリー欄	

	第12回	
	タイトル	検定の基礎（２）：平均値の差の検定方法
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	検定の基礎（３）：カテゴリーデータの検定方法
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	時系列データの分析
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	実社会におけるデータ活用と必要なスキル
	フリー欄	
授業概要	本講義では社会科学の研究分野で用いられる統計学の知識となる、記述統計、推測統計についての基礎的内容を学習する。各回の内容について、用語や計算方法を解説した上で、簡単な例題の計算や分析を行う。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	知識を定着するための復習に必要な時間を十分確保すること。	
テキスト	資料を適宜配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	現代社会においては、様々な分野でデータが活用されています。それらのデータをどのように読むか、また、どのように利用するか等の統計学の知識は、個人や企業の選択や行動に大きな影響を及ぼします。本講義では、数式をなるべく使わず、データの読み方や利用方法を重視し、統計的思考を身につけることを目標とします。	
評価方法	定期試験（100点）：100％で評価する。 なお、出席時間数が当該科目の授業時間数の3分の2に満たないものは、試験の受験資格を失う。	
参考文献	鳥居泰彦 『はじめての統計学』 日本経済新聞社	
備考		

講義科目名称： 社会学(社) (40110)

授業コード： 40110

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
中川 恵			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	社会学の基礎的な用語と社会の見方を理解できる。 論文・書籍を自ら探し、内容を十分に理解して説明できる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス（学習目標と方針の共有／Teamsの基本動作確認／社会学の基本的な視角）
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	社会学入門—富永社会学批判を含んで、高田社会学を軸にして
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	地域社会—鈴木栄太郎の聚落社会の概念を基底において
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	ジェンダーとセクシュアリティ—ジェンダー・ステレオタイプと性の多元的構成
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	レポートの書き方／資料の探し方
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	福祉—高齢者の生活と幸福感を中心に
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	差別と民族—在日コリアンの事例を中心に差別の現状と民族の持続性を学ぶ
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	環境—快適環境づくりが引き起こす葛藤
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	社会調査—方法を理解する
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	社会調査の事例—ムラの調査，マチの調査，社会調査の方法
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	生活構造—生活への懐疑から，問題の「突きつけ」とその対応・対抗へ，生活構造論の新たな展開のために
	フリー欄	
	第12回	

	タイトル	テキスト解題：現代的課題とのかかわりで
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	レポート課題の発表準備
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	レポート課題の発表
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	レポート課題の発表を終えての軌道修正
	フリー欄	
授業概要	グループワークの授業形式を採用し、テキストに沿ってすすめます。	
実務経験及び授業の内容	まず、該当の章について講師が解説をおこないます。 次に、テキストの内容から重要なポイントを整理します。 最後に、受講生同士がこの章の内容から得た知識や考え方、経験などを共有します。 グループワークの形式に慣れてきたら解説と内容理解の部分を短縮し、受講生同士での意見交換に比重を傾けます。	
時間外学習	60分程度 例) テキストの該当箇所を事前に読み、理解できなかった箇所について自分なりに調べる 例) 質問をリストアップする。 例) 関心のある論文・書籍を探して入手する。 例) 論文・書籍を読み、内容を理解して要約文を作成する。	
テキスト	山本努・吉武由彩編著、2023、『入門・社会学-現代的課題とのかかわりで』学文社	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	・課題データ：本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用して課題の提出をおこないます。ガイダンスにて利用方法を確認してください。 ・出席：出席状況は各回の講義内にて確認します。公欠の扱いは内規に準じます。この講義では就職・編入試験関連の欠席は公欠に含みません。 ・発表：講義内にて用語理解や参照した論文・書籍について、講義内に発表を求める場合があります。その場合、事前に日程と内容を告知します。 ・講義データ：講義内容の一部はTeamsにてアーカイブ保存することがあります。講義最終日まで視聴可能とし、以後は予告なく削除します。 ・計画の変更：授業計画に示したテーマと進度は、受講生の理解度合いや関心によって若干変更することがあります。	
評価方法	各回の参加状況（60％）、レポート課題（40％）	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 社会ネットワーク論（40120）

授業コード： 40120

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
滝口 克典			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	本講義では、ネットワーク論の視点から、日常生活におけるさまざまなできごとや社会問題を考えていきます。到達目標は以下のとおりです。 ・ネットワーク論の基本的な視点や思考を理解できる ・日常生活における身近なできごとをネットワークと結びつけて考えることができる ・さまざまな社会問題をネットワークの視点から考え、理解することができる	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス 講師の実践紹介（ぷらっとほ一む、よりみち文庫など）
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	ネットワークとは？
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	ネットワーク思考の道具箱① スケールフリー
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	ネットワーク思考の道具箱② スモールワールド
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	ネットワーク思考の道具箱③ クラスター
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	ネットワーク思考の道具箱④ ソーシャルキャピタル
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	ネットワーク思考の道具箱⑥ アクターネットワーク
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	ワークショップ——新書で読むネットワーク論
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	ネットワーク思考で考える「家族」
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	ネットワーク思考で考える「友だち」
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	ネットワーク思考で考える「アイドル」
	フリー欄	

	第12回	
	タイトル	ネットワーク思考で考える「しごと」
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	ネットワーク思考で考える「地域」
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	ネットワーク思考で考える「災害」
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ・ふりかえり
	フリー欄	
授業概要	前半では、社会学的な視点から、ネットワークに関する基本概念、ネットワークをめぐるさまざまな理論などを学んでいきます。後半では、前半で身につけたネットワーク思考をもとに、身近にあるさまざまなできごとや社会現象、社会問題などを読み解いていきます。ネットワークの考えかたをさらに深められるよう、それをテーマとする新書を読むワークショップも開催する予定です。リアクションペーパー等で受講生の声を拾い、それらを随時クラスで共有しながら授業を進めていきます。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	各回のテーマに関連する小説や映画などを随時紹介していきます。ぜひ読んで／観てみてください。	
テキスト	滝口克典『〈場〉のちから 多文化ヤマガタ探訪記2020-2023年』（よりみち文庫、2023年、定価税抜1,600円）	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ネットワーク思考とは、それをかけるとふだんは見えないさまざまなことが見えるメガネみたいなものです。学んでいくにつれ、これまでとは違う社会の姿を捉えることができるようになっていくのがネットワーク論のおもしろいところです。授業ではいろんな事例や作品を紹介していきますので、ぜひいっしょに楽しみながら学んでいきましょう。	
評価方法	授業内課題70%、レポート課題等30%	
参考文献	授業内で随時紹介します。	
備考		

講義科目名称： 地域社会学（40135）

授業コード： 40135

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
中川 恵			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	地域社会学の基礎的な用語と社会の見方を理解できる。 論文・書籍を自ら探し、内容を十分に理解して説明できる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス（学習目標と方針の共有／Teamsの基本動作確認／社会学の基本的な視角）
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	地域社会学入門―未完のプロジェクト、マッキーヴァーのコミュニティ論を基軸に
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	都市と農村の社会分析―その現代的課題としての「都市的生活様式の限界」と「農村的生活様式の切り崩し」
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	都市生活と社会的統一の探索―鈴木栄太郎、奥井復太郎の都市把握と調査の試み
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	レポートの書き方／資料の探し方
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	現代農村の生活と「家と村」―近代化による変容の視点から
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	過疎内包型地域圏という構想―過疎地域の地域構造と生活構造の視点から
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	都市とマイノリティー―性的マイノリティの下位文化
	フリー欄	
第9回		
タイトル	社会調査―方法を理解する	
フリー欄		
第10回		
タイトル	集落農村にみる地域生活の自律的再編―広島県庄原市X 集落を事例として	
フリー欄		
第11回		
タイトル	地域福祉活動と農村高齢者の暮らし―地区社会福祉協議会の活動と福祉の担い手	
フリー欄		
第12回		

	タイトル	テキスト解題：現代的課題とのかかわりで
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	レポート課題の発表準備
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	レポート課題の発表
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	レポート課題の発表を終えての軌道修正
	フリー欄	
授業概要	グループワークの授業形式を採用し、テキストに沿ってすすめます。	
実務経験及び授業の内容	まず、該当の章について講師が解説をおこないます。 次に、テキストの内容から重要なポイントを整理します。 最後に、受講生同士がこの章の内容から得た知識や考え方、経験などを共有します。 グループワークの形式に慣れてきたら解説と内容理解の部分を短縮し、受講生同士での意見交換に比重を傾けます。	
時間外学習	60分程度 例) テキストの該当箇所を事前に読み、理解できなかった箇所について自分なりに調べる。 例) 質問をリストアップする。 例) 関心のある論文・書籍を探して入手する。 例) 論文・書籍を読み、内容を理解して要約文を作成する。	
テキスト	山本努編著、2024、『入門・地域社会学-現代的課題とのかかわりで』学文社	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	・課題データ：本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用して課題の提出をおこないます。ガイダンスにて利用方法を確認してください。 ・出席：出席状況は各回の講義内にて確認します。公欠の扱いは内規に準じます。この講義では就職・編入試験関連の欠席は公欠に含みません。 ・発表：講義内にて用語理解や参照した論文・書籍について、講義内に発表を求める場合があります。その場合、事前に日程と内容を告知します。 ・講義データ：講義内容の一部はTeamsにてアーカイブ保存することがあります。講義最終日まで視聴可能とし、以後は予告なく削除します。 ・計画の変更：授業計画に示したテーマと進度は、受講生の理解度合いや関心によって若干変更することがあります。	
評価方法	各回の参加状況（60％）、レポート課題（40％）	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 社会調査演習（40140）

授業コード： 40140

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
中川 恵			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	社会調査の基礎的知識を基に、課題に応じた社会調査の手法や内容を調整て実施し、成果を検証する。	
授業計画	第1回	
	タイトル	実践研究の方法（地域貢献活動の目的・意義、実践研究報告書の書き方）
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	実践研究課題の選択、役割分担
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	調査の基本：論理思考／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	社会調査の論理／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	文献調査の方法／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	調査票調査の方法／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	質的調査の方法／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	情報探索とデータ化／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	中間発表：文献調査チーム
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	中間発表：環境実践チーム
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	中間発表を踏まえた軌道修正
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	調査報告書の発表・準備
	フリー欄	
	第13回	

	タイトル	調査報告書の発表：文献調査チーム
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	調査報告書の発表：環境実践チーム
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	調査報告書の全体読み合わせ
	フリー欄	
授業概要	どの地域貢献活動に参加するかを決め、チーム分けをおこなって社会調査をおこないます。また、調査の成果として調査報告書を執筆します。	
実務経験及び授業の内容	課題は以下の2つです。 1. 「地域活性化」を掘り下げるための文献調査 2. 米沢市環境フェスのための企画・実践	
時間外学習	講義時間はグループでの話し合いに優先的に時間を充てます。話し合いではテーマや進捗に即して意見交換をおこないます。資料の検索、読解、実践研究報告書の執筆・推敲などは時間外に実施してください。	
テキスト	宮内泰介、2024、『社会学をはじめの 複雑さを生きる技法』ちくまプリマー新書	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	課題ごとに2～5名のグループを編成して社会調査を企画・実施・評価します。課題は第1回講義にて説明しますので必ず出席してください。 シラバス作成時点で予定している課題は「授業の内容」欄に記載しましたが、予告なく変更する場合があります。第1回講義に出席できない場合は事前に講師に連絡してください。 講義時間はグループでの話し合いに優先的に時間を充てます。話し合いではテーマや進捗に即して意見交換をおこないます。資料の検索、読解、レポートの執筆・推敲などは時間外に実施してください。	
評価方法	調査活動の実際（70％）／調査報告書の内容（30％）	
参考文献	宮内泰介・ 上田昌文、2020、『実践・自分で調べる技術』岩波新書 小熊英二、2022、『基礎からわかる論文の書き方』講談社現代新書	
備考		

講義科目名称： 環境社会学（40150）

授業コード： 40150

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
中川 恵			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	環境社会学の基礎的な用語と社会の見方を理解できる。 論文・書籍を自ら探し、内容を十分に理解して説明できる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス（学習目標と方針の共有／Teamsの基本動作確認／社会学の基本的な視角）
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	環境社会学入門―水から何を見るのか
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	アジア途上国の水問題の諸相
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	流域社会の現在
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	レポートの書き方／資料の探し方
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	上流社会が抱える課題
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	労働からみる水と人のかかわり
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	観光地化を目指さないアクアツーリズム
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	水環境ガバナンス―市民参加の制度化とその限界
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	地域社会におけるリスクと人びとの対応
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	地域福祉活動と農村高齢者の暮らし―地区社会福祉協議会の活動と福祉の担い手
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	利用価値の変化にともなう水環境との関係の再構築
	フリー欄	

	第13回	
	タイトル	水と人の関係は何を教えるのか
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	レポート課題の発表
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	レポート課題の発表を終えての軌道修正
	フリー欄	
授業概要	グループワークの授業形式を採用し、テキストに沿ってすすめます。	
実務経験及び授業の内容	まず、該当の章について講師が解説をおこないます。 次に、テキストの内容から重要なポイントを整理します。 最後に、受講生同士がこの章の内容から得た知識や考え方、経験などを共有します。 グループワークの形式に慣れてきたら解説と内容理解の部分を短縮し、受講生同士での意見交換に比重を傾けます。	
時間外学習	60分程度 例) テキストの該当箇所を事前に読み、理解できなかった箇所について自分なりに調べる。 例) 質問をリストアップする。 例) 関心のある論文・書籍を探して入手する。 例) 論文・書籍を読み、内容を理解して要約文を作成する。	
テキスト	牧野厚史、藤村美穂 川田美紀編著、2024、『入門・環境社会学-現代的課題との関わりで』学文社	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	・課題データ：本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用して課題の提出をおこないます。ガイダンスにて利用方法を確認してください。 ・出席：出席状況は各回の講義内にて確認します。公欠の扱いは内規に準じます。この講義では就職・編入試験関連の欠席は公欠に含みません。 ・発表：講義内にて用語理解や参照した論文・書籍について、講義内に発表を求める場合があります。その場合、事前に日程と内容を告知します。 ・講義データ：講義内容の一部はTeamsにてアーカイブ保存することがあります。講義最終日まで視聴可能とし、以後は予告なく削除します。 ・計画の変更：授業計画に示したテーマと進度は、受講生の理解度合いや関心によって若干変更することがあります。	
評価方法	各回の参加状況（60％）、レポート課題（40％）	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 社会心理学（40170）

授業コード： 40170

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	社会心理学の知見を用いて、社会や人間についての理解を深めることができる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	はじめに
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	印象形成
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	帰属
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	推論と問題解決
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	自己
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	性格と社会的性格（性格）
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	性格と社会的性格（社会的性格）
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	態度（態度の一貫性）
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	態度（認知的不協和）
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	説得（精査可能性モデル）
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	説得（効果的な説得とは）
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	ノンバーバル・コミュニケーション
	フリー欄	
	第13回	

	タイトル	同調（古典的研究と服従の心理）
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	同調（どんな時に同調するか）
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	役割
	フリー欄	
授業概要	社会心理学で扱う内容のうち、社会的認知、対人関係、集団内行動といった、主に個人の内部や対人間で生じる現象に関するトピックを取り上げて講義する。「心理学的」社会心理学の側面が強い内容となっている。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。	
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	映像を見たり、アンケートやクイズなどの内容が多い授業になっているので、履修者の皆さんも参加してください。なお、後期の「集合行動論」も履修すると、社会心理学の全体像が見渡せると思います。	
評価方法	レポート・課題（70％）、授業への参加度（30％）	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 集合行動論（40180）

授業コード： 40180

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	社会心理学の知見を用いて、社会や人間についての理解を深めることができる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	はじめに
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	利他主義（援助行動）
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	リーダーシップと集団思考（リーダーシップの理論）
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	リーダーシップと集団思考（集団成極化現象）
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	集団間差別と偏見（集団間葛藤）
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	集団間差別と偏見（社会的アイデンティティ理論）
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	交換理論
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	ゲーム理論と社会的ジレンマ
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	群集とパニック
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	流言とデマ
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	世論とマスコミ
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	文化
	フリー欄	
	第13回	

	タイトル	異文化間コミュニケーション
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	映像でみる集合行動論（前半）
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	映像でみる集合行動論（後半）
	フリー欄	
授業概要	社会心理学で扱う内容のうち、集団間行動、集合行動、文化といった、主に集団間や組織されない集団、社会で生じる現象に関するトピックを取り上げて講義する。「社会学的」社会心理学の側面が強い内容となっている。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。	
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	映像を見たり、アンケートやクイズなどの内容が多い授業になっているので、履修者の皆さんも参加してください。なお、前期の「社会心理学」も履修すると、社会心理学の全体像が見渡せると思います。	
評価方法	レポート・課題（70％）、授業への参加度（30％）	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 社会心理学演習（40190）

授業コード： 40190

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	カウンセリング体験を通して、自他理解を深めることができる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	はじめに
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	SGEとは
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	SGEエクササイズの紹介
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	グループ分け・SGEエクササイズ選び
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	グループごとに打ち合わせ
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	SGE体験
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	SGE体験
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	SGE体験
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	SGE体験
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	SGE体験
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	SGE体験
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	SGE体験
	フリー欄	
	第13回	

	タイトル	SGE体験
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	SGE体験
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	ふりかえり
	フリー欄	
授業概要	SGE（構成的グループエンカウンター）について概観した後、SGE体験を通して理解を深める。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。	
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	人間関係づくりやカウンセリングに興味のある学生、ピアヘルパーの資格を取得したい学生を歓迎します。エクササイズを行う都合上、毎回出席を取りますので、できるだけ休まないようにしてください。なお、欠席回数によっては追加レポートを課すことがあります。就職活動や教育実習などで休む場合は事前に連絡してください。	
評価方法	授業への参加度（70％）、課題（30％）	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 政治心理学（40200）

授業コード： 40200

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	政治学や政治心理学の知見を用いて、政治現象についての理解を深めることができる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	はじめに
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	民主主義（これまでの変遷）
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	民主主義（今日の課題）
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	イデオロギー（これまでの価値観）
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	イデオロギー（新しい価値観）
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	政党支持と選挙（政党支持の種類）
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	政党支持と選挙（選挙の理論）
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	政策決定ゲームをしよう（準備編）
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	政策決定ゲームをしよう（本番編）
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	政策決定ゲームをしよう（ふりかえり編）
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	政治的パーソナリティ
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	政治的社会化
	フリー欄	
	第13回	

	タイトル	テロリズム
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	映像でみる政治心理学（前半）
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	映像でみる政治心理学（後半）
	フリー欄	
授業概要	政治過程や政治現象の心理的側面に関するトピックを取り上げて講義する。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。	
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この授業では、政治学を学んだことのない学生向けに、政治学、政治過程論、政治心理学などに関するトピックを取り上げます。自治体の政策決定ゲームをしたり、映像を見る機会を設けてあるので、履修される方はぜひ主体的に取り組んでみてください。なお「社会心理学」「集合行動論」「国際関係論」といった科目も履修すると、より理解が深まると思います。	
評価方法	レポート・課題（70％）、授業への参加度（30％）	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 認知心理学（40210）

授業コード： 40210

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
石崎 毅			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
	聴講生開講科目※	※一般の男女が聴講する場合有	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	テーマ 認知心理学への理解を深める。 到達目標 人間が記憶したり理解したり思考したりする方法を学ぶことによって、意図的にそれらの方法を用いて生活できる基礎を育む。	
授業計画	第1回	
	タイトル	オリエンテーション（認知心理学とはどのような学問か）
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	記憶の仕組み（認知心理学と脳科学の視点から）
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	記憶と再生（記憶はどのようにして再生されるのか）
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	知識の構造（人はどのようにして認知しているのか）
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	文章理解の認知過程（読んで理解するということはどういうことか）
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	言語の外在的意味と内在的意味（発した言葉は相手にどのように伝わっているのか）
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	第1回から第6回までのまとめ
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	問題解決の過程（人はどのような思考過程を経て問題に挑んでいるのか）
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	類推的な考え方（問題解決には欠かせない3つの思考方略がある①）
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	演繹的な考え方（問題解決には欠かせない3つの思考方略がある②）
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	帰納的な考え方（問題解決には欠かせない3つの思考方略がある③）
	フリー欄	
	第12回	

	タイトル	原因帰属（適切に原因を探索するには）
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	メタ認知（高度な認知とは何か）
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	認知主義的学習（認知心理学の視点をふまえた学習とは）
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	総まとめ
	フリー欄	
授業概要	各授業ごとに、キーワードを明確にしつつ、その概念の理解が深まるように授業を展開します。終末では、キーワードについて自分の既有知識や体験と関連付けながらまとめる活動を行うことにより、概念の定着を図ります。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	レポートを課すことがあります。	
テキスト	必要に応じて資料を配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	認知心理学は脳がどのように働いて人間の行動を決定しているのかを考察する学問でありコンピュータの発展を支えるように深化してきました。全15回の講義を通して少しずつ考えを積み重ねて、自分なりに気づくことを見つけ、認知心理学への理解を深めてほしいと思います。	
評価方法	授業課題70%（授業の中に書き上げる600文字程度の授業課題の記述内容で評価します。評価の観点は「授業で紹介したキーワードを軸に自分の考えが記述されているか」「限られた時間（20～30分）で読みに理解していることが伝えられるか」の2点とします。） 期末課題30%（800文字～1000文字程度の期末課題を課します。評価の観点は「授業で紹介したキーワードを軸に記述されている。」「そのキーワードについて今後どのように社会生活に生かすことができるかについて自分の考えが記述されている。」の2点とします。）	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 経済学入門（40310）

授業コード： 40310

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
山田 忍			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	経済学とは、限りある資源を用いて財やサービスを生産し、どうすれば私たちの生活が豊かになるかを考える学問である。「経済学入門」では、現代社会における経済の仕組みや役割、様々な経済現象に対して、経済学的考え方をを用いて理解を深める。具体的な到達目標は、次の通りである。①需要と供給の関係を述べることができる。②完全競争企業が利潤最大化となる生産量を決定する過程を述べることができる。③一国経済全体の物価・総需要・総供給や国民所得のとらえ方を理解し説明することができる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス、経済学とは何か？経済とは何か？
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	ミクロ経済学の基礎
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	市場均衡と均衡の安定性
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	消費の理論　－需要曲線と消費者行動－
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	生産の理論（１）：完全競争企業
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	生産の理論（２）：独占市場と寡占市場
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	市場の失敗（１）：不完全競争と費用逡減産業
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	市場の失敗（２）：外部効果、公共財の理論と情報の不完全性
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	マクロ経済学の基礎
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	国民経済計算（１）：国の経済の仕組みとマクロ経済学の均衡
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	国民経済計算（２）：国民所得の諸概念と三面等価の原則
	フリー欄	
	第12回	

	タイトル	財市場の分析　－国民所得の決定－
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	政府の総需要管理政策
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	貨幣市場と金融政策
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	国際経済学　－為替レートと比較優位－
	フリー欄	
授業概要	本講義においては、個々の企業や家計の行動や、ある財・サービスの市場などを分析する「ミクロ経済学」と一国経済全体の物価・総需要・総供給や国民所得といったものの関係が分析対象となる「マクロ経済学」を学ぶ。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	知識の定着のために、復習に必要な時間を十分確保すること。経済ニュースに興味を持ち理解するように努めること。	
テキスト	資料を適宜配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	経済学は、大きく2つのアプローチがあります。「ミクロ経済学」は、家族単位のお金の動きである「家計」や、消費者の行動、企業が行う生産や雇用などについて分析するものです。「マクロ経済学」は、景気の変動や、それに対する政府の対策など、経済の大きなメカニズムを分析するものです。それぞれの視点から、人々が生産や消費を通じてより豊かな生活を送るためにはどんな手段があるのかを考えます。	
評価方法	期末試験：100%で評価する。 なお、出席時間数が当該科目の授業時間数の3分の2に満たないものは、試験の受験資格を失う。	
参考文献	伊藤元重 『入門経済学』 日本評論社	
備考		

講義科目名称： ファイナンス論（40320）

授業コード： 40320

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
山田 忍			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	本講義においては、社会の経済活動において、ファイナンス（金融）が持つ、お金を円滑に流通させるための基本的な仕組みや役割・機能について学ぶ。具体的な到達目標は、次の通りである。①貨幣の「存在理由」「仕組み」を理解し、述べることができる。②業態別の金融機関の特徴、経済活動における役割について比較できる。③貨幣市場を分析する理論の基礎を学び、そのメカニズムを述べることができる。④ファイナンス理論の基本的な考え方を述べることができる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス、ファイナンスとは何か？
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	貨幣の存在理由と機能
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	金融システム（１）：銀行の信用創造と通貨制度
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	金融システム（２）：金融取引と金融機関
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	金融システム（３）：金融商品の分類
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	金融システム（４）：資本市場と証券会社の業務
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	金融システム（５）：デリバティブ取引とその影響
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	金融政策（１）：マネーストックと物価
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	金融政策（２）：中央銀行と金融政策の手段
フリー欄		
第10回		
タイトル	資産市場の分析（１）：利子率の考え方	
フリー欄		
第11回		
タイトル	資産市場の分析（２）：流動性選好理論	

	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	資産市場の分析（３）：投資の理論
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	ファイナンス理論の基礎（１）：会計とファイナンスの違い
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	ファイナンス理論の基礎（２）：将来価値と現在価値
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	ファイナンス理論の基礎（３）：資本コストの考え方
	フリー欄	
授業概要	本講義では、ファイナンス（金融）における基本的な考え方を事例を交えて紹介するとともに、投資に関する代表的な理論を解説する。将来、企業において、経営や財務を担当する場合だけでなく、社会人として、業界の流れを把握し、企業間での取引を客観的に判断するための基礎的な知識を学ぶ。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	知識の定着のために、復習に必要な時間を十分確保すること。経済ニュースに興味を持ち理解するように努めること。	
テキスト	資料を適宜配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ファイナンス（金融）とは、資金に余裕がある人から必要な人に対してお金を融通する仕組みのことを指します。例えば、企業は事業を行うために、金融機関から借入したり、株式を発行したり、さまざまな方法で資金調達をします。そのため、ファイナンスの知識は、ほぼすべてのビジネスに密接に関わることになります。この授業では、将来社会人として活躍するためのファイナンスの基礎知識を学ぶことができます。	
評価方法	定期試験（100点）：100％で評価する。 なお、出席時間数が当該科目の授業時間数の3分の2に満たないものは、試験の受験資格を失う。	
参考文献	石野雄一 『ざっくり分かるファイナンス 経営センスを磨くための財務』 光文社新書	
備考		

講義科目名称： ファイナンス演習（40330）

授業コード： 40330

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
山田 忍			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	「ファイナンス演習」においては、ファイナンスにおける基礎的な理論や考え方を理解した上で、実際に分析や評価を行う。具体的な到達目標は、次の通りである。①Excelを用いた金融資産の現在価値計算、リスクの評価ができる。②ポートフォリオの評価・選択ができる。③証券市場、コーポレートファイナンス、デリバティブ商品についての各種機能や特徴について説明できる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	ファイナンス理論の基礎（１）：将来価値と現在価値、金融商品の価値計算
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	ファイナンス理論の基礎（２）：キャッシュフロー計算書
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	投資に関する理論（１）：株式投資
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	投資に関する理論（２）：債権投資
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	投資に関する理論（３）：ポートフォリオによる分散投資
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	投資に関する理論（４）：CAPM（資本資産評価モデル）
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	まとめと応用（達成度確認課題①）
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	企業財務の理論（１）：財務諸表分析の基礎
フリー欄		
第10回		
タイトル	企業財務の理論（２）：資本コスト	
フリー欄		
第11回		
タイトル	企業財務の理論（３）：企業価値評価	
フリー欄		

	第12回	
	タイトル	企業財務の理論（４）：MM理論と最適資本構成
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	デリバティブの理論（１）：デリバティブの基本
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	デリバティブの理論（２）：先物取引
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめと応用（達成度確認課題②）
	フリー欄	
授業概要	本講義では金融資産の中心をなす株式・債券に関して、保有によるリターンとリスク、複数の資産を保有することでの分散効果、価値計算の方法等を学習する。各回の内容について、用語や計算方法を解説した上で、Excel利用し、例題の計算や分析を行う。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	知識の定着のために、復習に必要な時間を十分確保すること。経済ニュースに興味を持ち理解するように努めること。	
テキスト	資料を適宜配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ファイナンスとは、「企業における資金の調達・運用」のことを指します。ファイナンスを学ぶにあたっては、専門用語や計算方法も多くありますが、この授業では、それらの内容について、平易な言葉で解説し、簡単な計算や分析をExcelを用いて行います。また、実務において、ファイナンス理論がどのような場面で使われているのかを紹介します。	
評価方法	「達成度確認課題①」（50%）および「達成度確認課題②」（50%）合計：100%で評価する。	
参考文献	石野雄一 『道具としてのファイナンス』 日本実業出版社	
備考	USBメモリを持参すること	

講義科目名称： 簿記会計演習（40340）

授業コード： 40340

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	4	選択必修
担当教員			
貴田岡 信			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	テーマ：企業活動を記録する複式簿記の初歩を学ぶ 到達目標：1. 簿記の記録を通じて企業活動の概要が理解できる。2. 複式簿記にもとづく初歩的な記録を行うことができる。3. 日商簿記検定3級レベルの問題を解答できる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス 貸借対照表と損益計算書
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	勘定の構造と記入
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	仕訳と元帳への転記
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	試算表と精算表
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	簿記一巡と決算
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	現金・預金の記帳
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	商品売買の記帳
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	債権債務，手形取引の記帳
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	固定資産の記帳
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	株式会社の資本，税金
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	収益・費用の期末修正
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	決算整理の処理
	フリー欄	

	第13回	
	タイトル	8 桁精算表の作成
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	財務諸表の作成
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	伝票会計
	フリー欄	
授業概要	基本的な概念や処理方法について最初に解説を行い，時間内に問題演習と小テストを実施します。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	授業で学んだ内容を週に2回（1回2時間）程度復習を行うこと。	
テキスト	必須問題集：『検定簿記ワークブック 3級商業簿記』 中央経済社 850円（税別）	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	講義の位置付け上，簿記の初学者を対象とした授業を行います，高校時代に簿記を学んできた場合であっても新しい発見があるような授業を目指します。	
評価方法	期末試験の成績80% 毎回の小テスト20%	
参考文献	適宜紹介します。	
備考		

講義科目名称： 電子商取引概論（40350）

授業コード： 40350

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
董 彦文			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	1. 電子商取引（EC），電子マネー，消費者としてECの効果的な活用方法とトラブル防止策を学んで，ECの基本教養を身につけてもらう。 2. 事業者の視点から電子商店の開店方法と運営の基本知識を理解する。 3. 電子商取引関連の法律に関する基本知識を勉強する。	
授業計画	第1回	
	タイトル	商取引と電子商取引
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	電子商取引の特徴とその影, インターネットビジネス
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	電子決済と具体的な決済方法
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	電子マネー，キャッシュレス決済と仮想通貨
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	電子商取引に関連する法律と行政規制
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	契約に関する基本知識と消費者契約法
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	ネット物販業の基本とビジネスモデル
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	情報提供仲介事業と関連ビジネスモデル
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	コンテンツ販売事業，金融業における電子商取引とFinTech（フィンテック）
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	電子商店の始め方，ネットオークションとネットフリマの活用
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	電子ショッピングモールへの出店方法と独立型ネットショップの構築
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	電子商店運営の基本知識と基本運営指標

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	電子商店のマーケティング
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	EC関連の最新話題（レポート）
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	総合演習（レポート）
	フリー欄	
授業概要	消費者と事業者の視点から電子商取引（EC）の基本知識、基本技術および効果的な活用方法などを取り上げて講義する。インターネットの関連情報を活用し、様々な問題の答えを探究することも重視する。	
実務経験及び授業の内容	担当教員は様々な中小企業において業務情報システムの開発と電子商取引の導入に参加し、これらの実務経験を生かして、実用性を重視し授業内容を選定のうえ講義を担当する。	
時間外学習	毎回の授業で取り上げられるテーマについて、インターネットから関連の情報を調べたうえ、自分の見方・考え方を整理すること。また、専門用語が多いため、授業中にわからなかった語句の意味を調べること。	
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教員の説明を聞きながらインターネット上の関連情報を収集し課題を完成してもらうように授業を進める。難しい専門用語を避けて、より実用的・よりわかり易い授業になるよう工夫していきたい。	
評価方法	毎回授業に提出された課題の答え（60点）とレポートの内容（40点）によって評価する。	
参考文献	1．丸山正博：「電子商取引の進展—ネット通販とeビジネス」，八千代出版（2011）。 2．竹内謙礼：「成功者しか知らない ネットショップ運営 儲かる秘訣が2時間でわかる本」，双葉社（2004）。 3．二木紘三：「Eコマースのしくみ」，日本文芸社（2000）。	
備考		

講義科目名称： 情報セキュリティ論 (40360)

授業コード： 40360

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
董彦文			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	1. 一般利用者としての必要最低限な情報セキュリティ知識を身につけてもらう。 2. ネットワークにおける各種の危険性と脅威を理解のうえ、基本的な対策を習得する。 3. 情報セキュリティ関連の法律に関する基本知識を勉強する。	
授業計画	第1回	
	タイトル	インターネットとその危険性
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	情報セキュリティの定義：機密性，完全性，可用性とその他の特性
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	盗聴の脅威とその対策，暗号化技術の基本知識
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	侵入・なりすましの脅威と対策
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	改ざん・破壊の脅威と対策
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	マルウェア・ウィルスの脅威：基本知識，感染兆候と経路
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	マルウェア・ウィルス感染防止と駆除対策
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	情報セキュリティ関連法律のしくみと著作権法
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	知的財産権と特許法・商標法
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	コンピュータ犯罪防止法，不正アクセス禁止法と不当競争防止法
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	クラウドサービスとセキュリティ
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	SNSとSNSのプライバシー・セキュリティ問題
	フリー欄	

	第13回	
	タイトル	スマートフォンのセキュリティ対策
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	情報セキュリティの最新話題
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	総合演習とレポート
	フリー欄	
授業概要	情報の盗聴，侵入，破壊とマルウェア・ウィルス感染などの様々な脅威から身を守るための基本知識，基本対策について講義する。インターネットの情報を活用して問題を解決する能力の養成も重視する。	
実務経験及び授業の内容	担当教員は様々な中小企業において業務情報システムの開発とWebサーバーの設置・運営を担当し，これらの実務経験を生かして，実用性を重視し授業内容を選定のうえ講義を担当する。	
時間外学習	毎回の授業で取り上げられるテーマについて，インターネットから関連の情報を調べたうえ，自分の見方・考え方を整理すること。また，専門用語が多いため，授業中にわからなかった語句の意味を調べること。	
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教員の説明を聞きながらインターネット上の関連情報を収集し課題を完成してもらうように授業を進める。難しい専門用語を避けて，より実用的・よりわかり易い授業になるよう工夫していきたい。	
評価方法	毎回授業に提出された課題の答え（60点）とレポートの内容（40点）によって評価する。	
参考文献	1. 中村行宏：「情報セキュリティの基礎知識」，技術評論社(2017)。 2. 情報処理推進機構：「情報セキュリティ読本 五訂版：IT時代の危機管理入門」，実教出版(2018)。 3. 岩井博樹：「動かして学ぶセキュリティ入門講座」，SBクリエイティブ(2017)。	
備考		

講義科目名称： 経営学入門(40370)

授業コード： 40370

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
西平 直史			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放(教養)			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	現代社会において、企業という組織の存在は不可欠です。この授業では、社会の重要な構成要素である企業が、現代社会においてどのような役割を果たしているか、どのように経営されているかについて基本的な知識を習得します。 この授業を履修した学生は、①経営学とは何かを説明できる。②経営学にはどんな領域があるかを説明できる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス・企業の誕生
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	会社とは誰のものか
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	環境・戦略・組織
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	競争戦略の基本型
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	事業のリストラクチャリングと組織改革
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	ビジネス・システム
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	破壊的技術への対応と新規事業創造
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	プラットフォーム・ビジネス
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	グローバル戦略
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	経営理念と組織文化
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	人材のマネジメント
	フリー欄	
	第12回	

	タイトル	日本的生産システム
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	成熟市場における製品開発
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	環境変化期のマーケティング活動
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	ビジネスの倫理
	フリー欄	
授業概要	経営学のトピックについてケースを取り上げながら説明します。また、テキストの「考えてみよう・調べてみよう」にある課題を各自で考察し、小レポートにまとめることで理解を深めます。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	事前学習としてはテキストを講読しておいてください。事後学習としては、小レポート作成のための調査や考察を行い、小レポートを作成して期日までに提出してください。	
テキスト	ケースに学ぶ経営学〔第3版〕，東北大学経営学グループ著，有斐閣ブックス（2019），2970円，ISBN4641184488	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	毎回の授業は前半がテキストからの講義，後半は小レポートに取り組んでももらいます。また，学期末には期末レポートを課します。	
評価方法	小レポート75%，期末レポート25%で評価します。	
参考文献	必要に応じて授業時に紹介します。	
備考		

講義科目名称： 経営情報論(DX論) (40381)

授業コード： 40381

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
西平 直史			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	現代は、情報社会またネットワーク社会と呼ばれることがある。企業をはじめとする組織体は、情報通信技術を駆使して、自らを発展させようとしており、デジタルトランスフォーメーション（DX）を推進している。この授業ではDXの先端事例を取り上げて、デジタル経営の基礎となる考え方や理論を習得することを目標とする。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス・デジタル経営とビジネスモデル
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	パターン認識と予測
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	最適化
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	サプライチェーン・マネジメント
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	ブロックチェーン
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	デジタル経営の戦略とプロセス
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	「神の手」のDX変革
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	リテールAI
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	IoTソリューション・ビジネス
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	スマートファクトリー
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	ビジネス・エコシステム
	フリー欄	

	第12回	
	タイトル	スマート農業
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	オンライン・メンテナンス
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	スポーツテック
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	シェアリング・ビジネスとダイナミック・プライシング
	フリー欄	
授業概要	PowerPointを使用した講義形式となる。毎回の講義後各自で小レポート課題に取り組む。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	事前学習 テキストを熟読し、わからないことは調べておくこと。 事後学習 授業中に小レポート課題が完成しなかった場合には次回までに終わらせておくこと。また、授業中にわからなかった語句の意味を調べる。日頃より新聞やニュースをチェックし、この授業のテーマについて主体的・積極的に考えること。	
テキスト	伊藤，松尾，富田，1からのデジタル経営，碩学舎（2400円+税） ISBN 978-4-502-41091-8	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	毎回の小レポート課題に取り組むことでアクティブに学習することを期待します。	
評価方法	毎回の授業でそれぞれ小レポートを課す（75％）。また，学期末には最終レポートを課す（25％）。いずれも，レポートへの取り組み方30％，レポートの内容70％で評価する。	
参考文献	特に指定しない	
備考	対面とオンラインを併用する。アナウンスを確認すること。	

講義科目名称： 経営管理論(40392)

授業コード： 40392

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
畠山 健太			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			講義形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	本講義では、経営管理の基礎的な理論について学習します。これらの理論がどのような背景で誕生し、現代の企業経営においてどのような意味を持つのか、実例を交えながら解説します。単なる用語や定義の暗記ではなく、理論が生まれた背景を理解し、そこから得られる気づきを重視することで、現実のビジネスシーンに応用できる力を養います。到達目標は、「経営管理の基礎理論を理解し、その背景や目的を説明できること」、「理論を用いて、現代の企業経営における課題を分析し、自分の考えを論理的に展開できること」、「ビジネス現場で応用できる実践力を身に付けること」とします。理論を学ぶことは、実践に活かすための第一歩です。本講義を通じて、経営管理の基本的な視点を養い、それをもとに実社会で活用できる実践力を身につけましょう。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス、経営管理論のテーマと到達目標
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	会社の種類とコーポレート・ガバナンス
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	マネージメントの誕生（古典的管理論）
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	マネージメントの誕生（近代的管理論）
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	モチベーション論
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	リーダーシップ論
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	組織構造のマネジメント
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	組織文化のマネジメント
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	経営組織のコンティンジェンシー理論
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	企業戦略
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	競争戦略

	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	イノベーションのマネジメント
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	日本的経営
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	生産管理
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	財務管理
	フリー欄	
	タイトル	
	フリー欄	第16回に試験
授業概要	PowerPointを使用した講義形式とします。優秀なリアクションペーパーの発表と、発表内容に対する質問、コメント等、ディスカッションを実施します。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	[事前学習] テキストの指定箇所を読み用語と流れを理解しておいてください。 [事後学習] 講義で扱ったテーマに対して、現在のビジネスでどのように活用されているか、アルバイト等、身近な題材で構わないので、考えをまとめておいてください。	
テキスト	上野恭裕、馬場大治（2016）『経営管理論』中央経済社（2,640円） ISBN：978-4-502-19061-2	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業中の発言とリアクションペーパーは講義内容から大きく逸脱していなければ、それぞれ1点ずつ（15回の講義なので合計30点）加点します。したがって、各回、休まずに出席し主体的に取り組んでいれば単位取得は難しいものではありません。期末テストの結果で学生間の成績に差をつけるものとします。	
評価方法	期末テスト（小論文）70%、授業中の発言15%、リアクションペーパー15%	
参考文献	塩次喜代明、高橋伸夫、小林敏男（2009）『経営管理 新版』有斐閣アロマ（2,090円） 高橋伸夫（2011）『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房（3,080円）	
備考		

講義科目名称： 経営情報演習 (40400)

授業コード： 40400

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
西平 直史			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	経営においては様々なデータを集めて分析を行い役立てています。この授業ではMicrosoft社のExcelを用いて、データの基本的な分析を実際に行います。この授業を履修した学生は、①Excelを用いてデータの分析を行えるようになる。②分析した結果を考察できるようになる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス・Excelの基本操作
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	データの確認（欠損値，基本統計量など）
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	ピボットテーブルによる分析
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	データの可視化（グラフ作成）
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	ソルバーによる最適化
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	回帰分析
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	主成分分析
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	クラスターリング
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	決定木
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	総合演習 1（課題の考察とデータ収集）
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	総合演習 2（データの確認，可視化）
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	総合演習 3（分析 1つ目の手法を用いて）

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	総合演習 4（分析 2つ目の手法を用いて）
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	総合演習 5（結果の考察）
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめとレポート作成
	フリー欄	
授業概要	オープンデータセットのデータを用いて、Excelによる分析を行います。9回目までは比較的小規模なデータセットを用いてデータの基本的な分析方法を身に着けます。10回目以降は、やや大規模なデータを用いて、実際に分析して考察できるようになることを目指します。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	授業中にわからなかったところを時間外に復習してください。また、授業中に出す課題に取り組んで期日まで提出してください。	
テキスト	必要に応じて資料を配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	実際にExcelを操作してみないと分析方法は身につきません。PCに苦手意識がある人も頑張って取り組んでください。また、分析結果は考察しなければただの数値やグラフです。考察する力を身に付けてください。	
評価方法	1回目から9回目の授業で出す課題30%，総合演習のレポート70%	
参考文献		
備考	授業の進み具合によってはシラバスの内容を柔軟に変更する場合があります。	

講義科目名称： メディア文化論（40511）

授業コード： 40511

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）	聴講生開講科目（※一般の男女が聴講する場合有）	高大連携開放科目（※高校生男女が受講する場合有）	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	本授業のテーマ及び到達目標は以下の通りです： 1．歴史的側面からメディアの発展史とその特徴について概観・記述することができる。 2．現代においてメディア・コミュニケーションが有している文化的・社会的意義を理解することができる。 3．メディア研究・文化研究における主要な方法論を習得し、その方法論に基づいた視点からの対象記述と分析を行なうことができる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	「メディア」とは何か　メディア論の射程
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	メディアの歴史と「メディア史観」
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	記号とコミュニケーション
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	メディアの作用
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	言語コミュニケーション／非言語コミュニケーション
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	メディア・アイデンティティ・身体
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	コミュニケーション様式の変化とメディアのデジタル転回
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	マスコミュニケーションと日常のグローバル化
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	メディアと公共圏
フリー欄		
第10回		
タイトル	監視と権力	
フリー欄		
第11回		
タイトル	現代資本主義と文化産業	
フリー欄		
第12回		
タイトル	欲望と流行のメディア／交換と贈与の体系	

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	視覚文化と表象
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	コンテンツ分析の方法論
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	インターメディア／オルタナティブ・メディア
	フリー欄	
授業概要	メディア論／記号論／映像理論といったメディアをめぐる諸理論を概観し、かつそれらの諸観点に基づいて、メディアとその発展史ならびに文化的特性について分析的に講義します。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	いくつかの章ごとに課題の提出を求めます。授業中に案内しますが、普段から良質のドキュメンタリーや報道番組、あるいは映画・映像作品を視聴／鑑賞することを求めます。本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題やリアクションペーパーの提出によって、学修内容を深めてもらう予定です。	
テキスト	池田理知子・松本健太郎編著『メディア・コミュニケーション論』、ナカニシヤ出版、2010年、2200円（本体価格）、購入方法等については別途指示します。その他の資料については適宜プリント等を配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	課題レポートを活用した質問・意見交換などを通じて、今日のメディア社会に課せられた諸問題について、皆さんが自分自身で「考える」力を身につけられるように工夫します。	
評価方法	授業中の提出課題70%、期末レポート30%。	
参考文献		
備考		

講義科目名称： メディア表現論（40521）

授業コード： 40521

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	本授業のテーマ及び到達目標は以下の通りです： 1．デジタル表現・制作の現場において必要とされる技術的知識を習得できる。 2．メディア表現に関する理論と枠組みを表現史の観点から理解し、記述することができる。 3．上述の技術や知識が現代のメディア表現においてどのように活用されているかを実際の作品に即して説明することができる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス デジタルデータの形式
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	デザインの歴史
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	イラストレーションとデザイン
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	文字の情報処理
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	タイポグラフィとデザイン
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	色彩の情報処理
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	商業印刷における色彩表現
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	色彩調和と配色の理論
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	写真の歴史
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	デジタル写真の原理
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	写真表現の理論
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	著作権と知的財産権・肖像権

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	メディア表現と著作権
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	デジタル動画とアニメーション
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	デジタル音楽制作の理論と実践
	フリー欄	
授業概要	現代のデジタル表現技術に関して、その前提となる表現史、表現理論、ならびに制作の方法論を講義形式で概観します。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	デザイン史、タイポグラフィ、色彩論、写真表現、著作権、デジタル動画／音楽のそれぞれの分野について、課題レポート／作品レビュー等の定期的な提出を求めます。本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題やリアクションペーパーの提出によって、学修内容を深めてもらう予定です。	
テキスト	資料プリントを適宜配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	実作品の鑑賞や解説などを可能な限り混じえることで、技術的な知識と表現の歴史・技法の解説とが、受講生の皆さんの創作的意欲につながるような授業にします。	
評価方法	授業での課題提出・小テスト70%、期末課題30%。	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 視覚文化論（40531）

授業コード： 40531

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	本授業のテーマ及び到達目標は以下の通り： 1．マンガならびにアニメを研究対象にした視覚文化作品の分析の方法論を身につけることができる。 2．表象文化の研究におけるさまざまな学際的なアプローチについて理解することができる。 3．上述の方法論を学際的に統合した上での作品分析を行うことができる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	マンガ／アニメと教育
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	マンガ／アニメの歴史（論）
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	マンガと文学・ライトノベル
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	マンガ表現論とその「歴史」
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	キャラクター論
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	マンガ／アニメとジェンダー
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	映像・芸術としてのマンガ
	フリー欄	
第9回		
タイトル	マンガ／アニメの物語論	
フリー欄		
第10回		
タイトル	産業としてのマンガ／アニメ	
フリー欄		
第11回		
タイトル	同人誌と同人文化	
フリー欄		
第12回		
タイトル	マンガ／アニメと観光	

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	マンガとミュージアム
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	マンガ／アニメの海外受容
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ マンガ／アニメ研究における学際性
	フリー欄	
授業概要	マンガ／アニメの特性とその文化的変容について学際的視点から講義するとともに、マンガ／アニメ作品の分析のために必要な理論・方法論を概観し、実際の作品分析をワークショップ形式で行います。授業に際してはテキストの購入が必須になります。購入方法については最初の授業で説明します。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	いくつかの章ごとに課題の提出を課します。マンガやアニメ作品の購読・視聴において、意識的に批評的精神をもって臨んでください。自分の購読・視聴したマンガ・アニメ（TV／劇場版）作品について、記録と簡単なレビューを残しておくことを求めます。本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題やリアクションペーパーの提出によって、学修内容を深めてもらう予定です。	
テキスト	小山昌宏・玉川博章・小池隆太編著『マンガ研究13講』、水声社、2016年、3000円（本体価格。仕入価格により若干の値段変動あり）、購入方法等については講義中に指示します。その他の資料については適宜配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	課題提出などを通して理論的／分析的思考を養ってもらうとともに、参加型の授業形式を複数回取り入れ、議論を通じて広く理解を深めてもらおうと考えています。	
評価方法	授業中の提出課題50%、期末レポート50%。	
参考文献	小山昌宏・須川亜紀子編著『アニメ研究入門〔増補改訂版〕 アニメを究める9つのツボ』、現代書館、2014年。小山昌宏・須川亜紀子編著『アニメ研究入門〔応用編〕 アニメを究める11のコツ』、現代書館、2018年	
備考		

講義科目名称： メディア制作演習（40540）

授業コード： 40540

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	本授業のテーマ及び到達目標は以下の通りです： 1．イラストレーション／ポスターデザイン／エディトリアルデザインのソフトウェアの基本的な操作ができるようになる。 2．単なるソフトウェアの操作技術ではなく、体系的な知識と方法論に基づいた制作を実践できる。 3．自分自身のオリジナルな表現形式に立脚した作品制作を計画立てて遂行することができる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	ドローソフトによる描画（パス）について
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	シンボルマークの制作
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	名刺の制作（文字組みの方法論）
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	地図・インフォグラフィックスの制作
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	写真補正の基礎
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	写真補正の実践と特殊効果
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	テクスチャー素材とロゴの制作
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	フライヤーの制作（立案）
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	フライヤーの制作（レイアウトと構成）
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	フライヤーの制作（仕上げと講評）
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	イラストレーションの技法

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	イラストレーションの制作プロセス
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	最終課題作品の構想案作成とプレゼンテーション
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	最終課題作品の制作について
	フリー欄	
授業概要	Adobe社のIllustrator・Photoshopを用いたデザインやアート表現を、制作を通して実践的に学びます。毎回の演習課題は実地の制作同様のスタイルで進めていきます。自ら考えて表現しようとする意志を要求する授業です。最終的に自由制作課題作品を1点提出してもらいます。 本演習は1年次後期の「メディア表現論」を既履修であることを前提としていますので、そのつもりで履修すること（詳細は「受講生へのメッセージ」欄を参照）。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	授業時間中に行うのは、原則としてソフトウェアの機能や操作、何ができるのか、ということの解説が主となりますので、授業で提示した課題については各自時間外に学修・作業をしてもらうことになります。制作のための写真撮影やデジタル素材集め、スケッチ・レイアウト構成の下書きなどの準備作業も必要になります。	
テキスト	資料プリントを適宜配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	後期の講義科目の「メディア表現論」の実践演習と捉えてください。「メディア表現論」の履修はカリキュラム上の必須条件ではありませんが、本演習は同講義で解説した知識が習得済であることを前提に行われます。「メディア表現論」の単位を習得せずに本演習を履修しようとする方は必ず事前に面談に来ること（基本的な知識を問うペーパーテストを課します。あらかじめ修得しておくべき知識に不足がみられる場合には履修は認められません）。	
評価方法	演習課題の提出 80%、最終課題作品（提出必須） 20%。	
参考文献		
備考		

講義科目名称： メディアリテラシー (40550)

授業コード： 40550

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	メディアの特徴や修辞法を学ぶことにより、メディアが伝えたい物は何かを知り、物事を批評する力を習得できる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	はじめに
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	私のメディア史
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	SNSの広報戦略
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	SNS用広報画像を作ろう
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	写真撮影の練習
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	SNS広報記事の制作
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	SNS広報記事の制作
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	メディアは構成される
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	メディアがリアリティを作る
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	メディアの伝える価値観・商業主義
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	ビデオ撮影と編集
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	動画の制作
	フリー欄	
	第13回	

	タイトル	動画の制作
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	動画の制作
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	課題作品発表会
	フリー欄	
授業概要	メディアリテラシーに関するトピックを取り上げて講義するとともに、iMacで画像や動画の編集を行って「メディアは構成される」ことを理解する。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画、ネットなどを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。	
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	講義に加えて、画像や動画を実際に制作する課題もありますので、主体的に取り組む方を歓迎します。なお2年に一度、山形市で山形国際ドキュメンタリー映画祭が開催され、世界の人々の生活や社会問題を取り上げたドキュメンタリー映画が上映されます。メディアリテラシーの視点を養うことにも役立つと思いますので、関心がある方はぜひ見に行ってください。	
評価方法	課題（70％）、授業への参加度（30％）	
参考文献		
備考		

講義科目名称： データベース概論（40590）

授業コード： 40590

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義・演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】企業で扱う顧客情報や商品情報など、ICT社会の根幹を担うデータベースの基礎的な事項を理解する。 【到達目標】業務にて小規模なデータベースシステムを取り扱う場合を想定して、業務に必要なスキルを身につける。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス
	フリー欄	前半はデータベースに関する基礎知識について学ぶ。後半は前半で学んだ基礎知識をもとにデータベースの実習を行う。
	第2回	
	タイトル	データとデータベース
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	テーブルとその構造、主キーと外部キー
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	リレーショナルデータモデル
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	リレーショナル代数
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	データの正規化
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	データの正規化
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	実習用データベースのテーブル設計
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	実習用データベースにおけるテーブル作成、リレーションシップの作成
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	実習用データベースにおけるクエリの作成
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	実習用データベースにおけるクエリによるレコードの抽出
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	実習用データベースにおける様々な抽出条件を設定したクエリによるレコードの抽出

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	実習用データベースにおけるクエリによるグループ化と集計
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	実習用データベースにおけるフォーム作成およびフォームを活用したテーブルへのデータ登録
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	実習用データベースにおけるレポートを活用した帳票とその設計
	フリー欄	期末課題
授業概要	講義ではデータベースに関する基礎的な知識の定着に努めます。実際にパソコンを使ってデータベース実習を行います。実習では講義で培ったデータベースに関する基礎的な知識をもとにして、データベースに関する技術や操作の習得に努めます。データベースシステムはMicrosoft Accessを使用します。	
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かしデータベース概論の授業を行います。	
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要です。そのため【事後学修】として授業時課題を課します。授業時課題は当該授業までの学習内容の確認・応用を行う課題の作成に取り組みます。	
テキスト	適宜、講義資料を配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	情報リテラシーの基礎は習得済みとして講義を行います。出席確認は呼名により行います。遅刻の場合は、授業終了後に遅刻の旨を自己申告してください。自己申告のない場合は欠席の取り扱いのままととなります。	
評価方法	授業回数の3分の2以上出席した人を成績評価の対象とし、次の評価方法にしたがって評価対象者の成績評価を行います。 [観点①]授業時課題：50%、[観点②]期末課題：50%	
参考文献		
備考	USBメモリ・配布資料を必ず持参してください。	

講義科目名称： プログラミング 1 (40613)

授業コード： 40613

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義・演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】プログラミングに必要な問題を解くための手順(アルゴリズム)の組み立て方を理解し、プログラムを順序立てて正確に作成する 【到達目標】プログラムを順序立てて正確に作成できる	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス
	フリー欄	本講義で使用するプログラミング言語はPythonを用います。
	第2回	
	タイトル	アルゴリズム：順次構造・選択構造・繰り返し構造
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	開発環境について
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	変数とデータ型、演算子
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	組み込み関数
	フリー欄	課題 1
	第6回	
	タイトル	リスト、ディクショナリ
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	モジュールの利用
	フリー欄	課題 2
	第8回	
	タイトル	条件分岐
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	複数の条件分岐
	フリー欄	課題 3
	第10回	
	タイトル	for文による繰り返し処理
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	while文による繰り返し処理
	フリー欄	課題 4
	第12回	
	タイトル	リストと繰り返し処理
	フリー欄	

	第13回	
	タイトル	ユーザ定義関数
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	(発展) 手書き数字を機械学習で識別させよう
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	(発展) 手書き数字を機械学習で識別させよう
	フリー欄	期末課題
授業概要	プログラムを作成することでコンピュータで利用できる新しいツールを作り出すことができます。そのためにはプログラムを順序立てて正確に作成する必要があります。各回の授業では例題プログラムのプログラミングを行いながら文法などの知識を学び、プログラミングに必要な考え方や技術を習得します。	
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かしプログラミング 1 の授業を行います。	
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回 4 時間程度の時間外学習が必要であるため、【事後学修】として授業時課題を課します。授業時課題は当該授業までの学習内容の確認とその応用を含めた課題プログラムの作成に取り組みます。	
テキスト	授業中に資料を配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	プログラム作成はトライ&エラーを繰り返しながら徐々に完成に近づけていくことが大半であることを理解してほしい。授業の出席確認は呼名により行います。遅刻の場合は、授業終了後に遅刻の旨を自己申告してください。自己申告のない場合は欠席の取り扱いのままとします。	
評価方法	授業回数の 3 分の 2 以上出席した人を成績評価の対象とし、次の評価方法にしたがって評価対象者の成績評価を行います。 [観点①] 例題プログラム提出：30%（※例題プログラムの総数×5点を満点とする） [観点②] 授業時課題：40%（※各課題の満点は、ルーブリックに設定された配点の合計点とする） [観点③] 期末課題：30%（※満点はルーブリックに設定された配点の合計点とする） 授業時課題および期末課題の課題プログラムはルーブリックに基づいて評価を行います。課題プログラムは提出期限内に指定のTeams課題ページに提出されたプログラムが評価の対象となります。	
参考文献	図書館にはプログラミングに関連する本が多数所蔵されています。	
備考	USBメモリ・配布資料を必ず持参すること	

講義科目名称： プログラミング 2 (40614)

授業コード： 40614

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義・演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】プログラミングに必要な問題を解くための手順(アルゴリズム)の組み立て方を理解し、プログラムを順序立てて正確に作成する 【到達目標】プログラムを順序立てて正確に作成できる	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス、JavaScriptの基本的な記述方法
	フリー欄	本講義で使用するプログラミング言語はJavaScriptを用います。
	第2回	
	タイトル	JavaScriptの基本的な記述方法
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	変数とデータ型
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	条件分岐：if命令
	フリー欄	課題 1
	第5回	
	タイトル	処理の多重分岐：else if命令、switch命令
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	繰り返し処理：while命令、do...while命令
	フリー欄	課題 2
	第7回	
	タイトル	繰り返し処理：for命令、for...in命令
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	関数の定義とその利用
	フリー欄	課題 3
	第9回	
	タイトル	イベントの発生とその取り扱い方法
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	JavaScriptからHTML要素を扱う
	フリー欄	課題 4
	第11回	
	タイトル	タイマー処理の実現
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	Canvas要素によるグラフィック操作
	フリー欄	

	第13回	
	タイトル	Canvas要素によるグラフィック操作とアニメーション
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	Canvas要素によるアニメーション
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	Canvas要素によるアニメーション、まとめ
	フリー欄	期末課題
授業概要	プログラムを作成することで、コンピュータで利用できる新しいツールを作り出すことができます。そのためにはプログラムを順序立てて正確に作成する必要があります。各回の授業では例題プログラムのプログラミングを行いながら文法などの知識を学び、プログラミングに必要な考え方や技術を習得します。	
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かしプログラミング2の授業を行う。	
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要であるため、【事後学修】として授業時課題を課します。授業時課題は当該授業までの学習内容の確認とその応用を含めた課題プログラムの作成に取り組みます。	
テキスト	適宜、講義資料を配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	プログラム作成は一度で全てが上手くいくことはなく、トライ&エラーを繰り返しながら徐々に完成に近づけていくことが大半であることを理解してほしい。授業の出席確認は呼名により行います。遅刻の場合は、授業終了後に遅刻の旨を自己申告してください。自己申告のない場合は欠席の取り扱いのままとなります。	
評価方法	授業回数の3分の2以上出席した人を成績評価の対象とし、次の評価方法にしたがって評価対象者の成績評価を行います。 [観点①]例題プログラム提出：30%（※例題プログラムの総数×5点を満点とする） [観点②]授業時課題：30%（※各課題の満点は、ルーブリックに設定された配点の合計点とする） [観点③]期末課題：40%（※満点はルーブリックに設定された配点の合計点とする） 授業時課題および期末課題の課題プログラムはルーブリックに基づいて評価を行います。課題プログラムは提出期限内に指定のTeams課題ページに提出されたプログラムが評価の対象となります。	
参考文献	図書館にはプログラミングに関連する本が所蔵されています。	
備考	USBメモリ・配布資料を必ず持参すること	

講義科目名称： I T概論（40620）

授業コード： 40620

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
開放（教養）			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】 ネットワーク、セキュリティなどIT技術に関する基本的な考え方や特徴などを学ぶ。 【到達目標】 IT技術やPCの仕組みなどについての知識や技術を説明できる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	ヒューマンインターフェース
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	コンピュータで扱う数値やデータに関する基礎的な理論
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	集合と論理演算、文字の表現
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	アルゴリズムとプログラミング
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	コンピュータ構成要素
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	システム構成要素
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	システム構成要素
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	オペレーティングシステム、ソフトウェア
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	ネットワークの形態とプロトコル
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	インターネットの仕組みとそのサービス
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	情報セキュリティ
	フリー欄	
	第13回	

	タイトル	情報セキュリティ対策
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	情報セキュリティ対策
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	暗号化技術
	フリー欄	
授業概要	昨今のICT社会を反映して通常のパソコン操作はできるものの、トラブルには対応できないなどの不安を持つ者も多い。これはITに関する知識や技術の不足が主な原因であるため、講義ではITに関するコア知識を習得します。	
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かしIT概論の授業を行う。	
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要です。【事後学修】として配布資料や参考文献などをいま一度読み直し、毎回の授業のノートやメモを整理してください。(所要時間：各回2～4時間程度)	
テキスト	授業中に、適宜、資料を配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	口頭で説明した内容が重要な内容である場合も多いため、ノートやメモを取るなどをして講義内容を頭で考え理解するように努めることが重要です。出席確認は呼名により行います。遅刻の場合は、授業終了後に遅刻の旨を自己申告してください。自己申告のない場合は欠席の取り扱いのままととなります。	
評価方法	期末試験（100点満点）：100％ 期末試験の受験資格は授業回数の3分の2以上の出席を条件とします。期末試験は持ち込み不可とし、座席の指定を行います。	
参考文献	IT技術に関する書籍やITパスポート試験に関するテキストは図書館などに数多く所蔵されています。例えばITパスポート試験に関するテキストでは、FOM出版「よくわかるマスター 令和6-7年度版 ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集」2,420円（税込み）があります。	
備考		

講義科目名称： 基礎ゼミー（40710）

授業コード： 40710

英文科目名称： ー

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
中川 恵			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	論理的な文章の構造を理解する。 地域貢献に実践的かつ学術的に取り組むために必要な知見を習得する。	
授業計画	第1回	
	タイトル	実践研究の方法（地域貢献活動の目的・意義、実践研究報告書の書き方）
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	実践研究課題の選択、役割分担
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	【テキスト確認】調べるということ／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	【テキスト確認】文献や資料を調べる／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	【テキスト確認】フィールドワークをする／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	【テキスト確認】リスクを調べる／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	【テキスト確認】データ整理からアウトプットへ／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	実践研究活動構想発表・準備
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	実践研究活動構想発表
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	実践研究活動構想発表・発表を踏まえての軌道修正
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	【テキスト確認】研究計画書とプレゼンテーション／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	実践研究計画発表：よねざわチーム
	フリー欄	
	第13回	

	タイトル	実践研究計画発表：たかはたチーム
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	実践研究計画発表を踏まえての軌道修正
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	実践研究計画書の全体読み合わせ
	フリー欄	
授業概要	テキストに沿って、論文の書き方を理解します。 課題ごとにグループを編成して現地訪問を企画・実施し、得られた知見を報告します。	
実務経験及び授業の内容	実地活動の企画・実施・報告・お礼等の流れを通じて、社会実践活動に必要な知識と技能を習得する 参考) 24年度：最上郡金山町へ滞在して、地域活性化に向けた実践研究の糸口を探そう	
時間外学習	講義時間はグループでの話し合いに優先的に時間を充てます。話し合いではテーマや進捗に即して意見交換をおこないます。資料の検索、読解、成果報告書の執筆・推敲などは時間外に実施してください。	
テキスト	小熊英二、2022、『基礎からわかる論文の書き方』講談社現代新書	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）		
評価方法	調査活動の実際（70％）／実践研究計画書の内容（30％）	
参考文献	宮内泰介・ 上田昌文、2020、『実践・自分で調べる技術』岩波新書	
備考		

講義科目名称： 基礎ゼミ二（40720）

授業コード： 40720

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	ゼミでの知的・人的交流を通して、専門ゼミでの研究に向けた基礎的な知識やスキルを習得できる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	オリエンテーション
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	テキストの選定
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	テキストの選定
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	担当章の割り振り
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	発表と議論
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	発表と議論
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	発表と議論
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	発表と議論
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	発表と議論
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	発表とグループディスカッション
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	発表とグループディスカッション
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	発表とグループディスカッション
	フリー欄	
	第13回	

	タイトル	発表とグループディスカッション
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	発表とグループディスカッション
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	ふりかえり
	フリー欄	
授業概要	社会心理学や政治学などに関する文献を読んで、各回の担当者がパワーポイントにまとめて発表し、みんなで議論する。この議論を行う中で、就活面接で行われるグループディスカッションの練習も行う。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。	
テキスト	みんなで選んで決める。なおレジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	昨年度は内藤朝雄『いじめの構造』（講談社）を読みました。今年度もゼミ生同士でどんな文献を読みたいかを話し合ってテキストを決めるので、履修希望者は前もって考えておいてください。 なお、この授業の履修を希望する学生はゼミ分けアンケートの理由欄に、社会心理学や政治学など、どんな学問分野に関心があるかと、どんなテーマの文献が読みたいかについて書いてください。質問や相談がある場合は亀ヶ谷研までお越しください。	
評価方法	発表・課題（70％）、授業への参加度（30％）	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 基礎ゼミ 三(40730)

授業コード： 40730

英文科目名称： Basic Seminar 3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	経営に関する基礎的・専門的な知識について全国レベルで資格認定する唯一の検定試験である「マネジメント検定(経営学検定)」の試験対策を通じて、実社会で積極的に企業活動に参画していくために必要なマネジメント観を養うことがテーマである。 経営学の基礎的な概念について学修することにより、1. 経営学や実社会で用いられる用語や理論について理解して説明することができる、2. 学修した用語や理論を用いて実社会の企業活動について理解して説明することができる、3. 実社会の企業活動について理解した上で自分自身の初期的なキャリアデザインを描くことができる、という能力を身に付けることが本講義における到達目標である。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	目標設定と戦略的な学習プロセスの策定
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	企業システム(Part. 1)：企業と経営、企業・会社の概念と諸形態
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	企業システム(Part. 2)：所有・経営・支配と経営目的、企業統治
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	経営戦略(Part. 1)：基礎理論、全社戦略
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	経営戦略(Part. 2)：事業戦略、機能別戦略
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	経営組織(Part. 1)：基礎理論、組織の基本形態
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	経営組織(Part. 2)：企業組織の諸形態、制度・管理・文化
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	経営管理(Part. 1)：基礎理論、マネジメントの階層とプロセス
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	経営管理(Part. 2)：経営計画、コントロール
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	経営課題(Part. 1)：M&Aと買収防衛策、経営のグローバリゼーション
	フリー欄	
	第12回	

	タイトル	経営課題 (Part. 2) : 企業経営と情報化, CSRと企業倫理
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	模擬試験 (Part. 1)
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	模擬試験 (Part. 2)
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	総括
	フリー欄	
授業概要	〔マネジメント検定(経営学検定)〕の解説書を輪読した後に過去問題に取り組み, その後に解答と解説をおこなう形式を採用する.	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	[事前学習] レジューメの指定箇所を熟読した上で, 用語や理論を事前に確認すること(各回1時間程度). [事後学習] テキストや配布されたレジューメ, 参考文献等を用いて, 講義内容を理解すること(各回1時間程度). また, 本講義に関連するWeb上の記事やYouTubeなどを含む動画等のデジタルな情報, 新聞や書籍等のアナログな情報の双方をできる限り活用・閲覧することが好ましい.	
テキスト	レジューメを適宜配布する形式を採用する.	
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	どんなに難しいと思うようなことであっても, 突き詰めれば簡単なことの集合体です。難しいからといって敬遠するのではなく, いかに簡単に捉えることができるか, という視点を身に付けていきましょう。	
評価方法	第2回目の講義において学生自身が設定した目標の達成率(100%)	
参考文献	一般社団法人日本経営協会編(2023). 『マネジメント検定試験公式テキスト(Ⅲ級)経営学の基本』中央経済社. 一般社団法人日本経営協会編(2018). 『経営学の基本(経営学検定試験公式テキスト)』中央経済社.	
備考	講義の進捗状況等によっては, シラバスの内容を柔軟に変更する可能性がある.	

講義科目名称： 基礎ゼミ 四（40740）

授業コード： 40740

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
山田 忍			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	「教養ゼミ」とは異なり、より専門的、応用的な領域を学び始めるため、経済学に関する専門領域の初歩から初期的応用について学ぶ。配布プリントの内容を十分整理、理解することが重要である。「基礎ゼミ四」では、応用経済学の範囲の「トピック」を題材に学習をすすめていく。具体的な到達目標は、次の通りである。 ①食料経済学の視点から「食」をとりまく課題について説明できる。②開発経済学の視点から、「人口問題」について討議できる。③環境経済学の視点から、「資源循環」のあり方について述べることができる。④地域経済学の視点から、「地域経済の課題」について討議できる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	食料経済学の視点（１）：経済発展と食生活の変化
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	食料経済学の視点（２）：食料輸入の増大と食料自給率の推移
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	食料経済学の視点（３）：わが国の主要食料品生産・流通・消費
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	食料経済学の視点（４）：「食」の安全性と品質の確保
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	開発経済学の視点（１）：人口増加と貧困問題－貧困のメカニズム－
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	開発経済学の視点（２）：人口転換と出生の経済学
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	開発経済学の視点（３）：発展途上国の食料需給構造
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	環境経済学の視点（１）：環境経済学とは
フリー欄		
第10回		
タイトル	環境経済学の視点（２）：経済発展と環境問題、変遷とその対策	
フリー欄		
第11回		
タイトル	環境経済学の視点（３）：わが国の物質フローからみた資源循環	
フリー欄		

	第12回	
	タイトル	環境経済学の視点（４）：資源循環からみた再資源化
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	地域経済学の視点（１）：経済発展と人口集積問題
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	地域経済学の視点（２）：地域特産物の継承性
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	地域経済学の視点（３）：地域資源の管理と課題
	フリー欄	
授業概要	「基礎ゼミ四」では、経済学にかかわる基盤的知識を学び、理解できるようになることを目標とする。具体的には、食料問題・開発途上国の貧困問題・環境問題・地域経済の課題についての理解を深め、問題意識を養う。設定されたテーマについて解説後、学生が考え、ディスカッションを行う。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	授業後、参考文献等を利用し復習する。	
テキスト	資料を適宜配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	現代の世界が抱える社会課題について、経済学の視点から学びます。様々な社会課題の現状を知ることによって、自分自身の問題意識を持つきっかけにしてほしいと思います。	
評価方法	課題提出や報告に関する質疑応答等、授業への取り組み方（60%）、グループワークへの貢献度（40%）、合計：100%で評価する。	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 基礎ゼミ 五（40750）

授業コード： 40750

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	本授業のテーマ・到達目標は以下の全てとなります： 1．実際の作品分析を通して、記号論や映像論・写真論・アニメーション研究・マンガ研究などにおける批評理論の基本的枠組を理解できる。 2．作品批評をプレゼンテーションとして発表し、かつコメントし、それらをまとめた文章としてできる能力を獲得する。 3．個別の作品の分析にとどまらず、特定のジャンルやその歴史的／社会的／政治的／文化的側面といった、包括的な視点からの批評意識をもつことができるようにする。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	作品分析の方法論
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	視覚文化研究の文献講読(1)
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	作品鑑賞と分析(1)
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	受講生による報告発表(1)
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	視覚文化研究の文献講読(2)
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	作品鑑賞と分析(2)
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	受講生による報告発表(2)
	フリー欄	
第9回		
タイトル	視覚文化研究の文献講読(3)	
フリー欄		
第10回		
タイトル	作品鑑賞と分析(3)	
フリー欄		
第11回		
タイトル	受講生による報告発表(3)	
フリー欄		
第12回		

	タイトル	視覚文化研究の文献講読(4)
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	作品鑑賞と分析(4)
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	受講生による報告発表(4)
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ
	フリー欄	
授業概要	基本的には文献講読を行なったうえで、2～3人の受講生による作品分析と報告発表を演習形式で行います。分析に必要な理論や概念を発表の合間に講義します。本年は主に宮崎駿監督作品を取り上げますが、具体的な分析作品は受講生の興味・関心に応じて決めていく予定です。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	授業で取り上げている映画・映像作品に関連する作品を別途鑑賞することを求めます。また受講生の報告発表の内容に関連してその他参考作品を提示してもらうこともあります。	
テキスト	資料プリントを適宜配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	作品の「感想」「印象」と、「鑑賞」「批評」とはまったく似て非なるものです。感性的に与えられたものについて分析的に捉えて考察する「眼」と、その分析を言語化し、他の人に解説する能力を養っていただければと考えています。	
評価方法	報告発表80%、期末レポート課題20%。	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 基礎ゼミ七（40770）

授業コード： 40770

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義・演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】生活に深く浸透したITや企業における経営についてのより深い学びを行います。 【到達目標】ITと経営に関する知識について説明することができる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	システム開発技術（システム開発のプロセス、要件定義、システム設計）・確認テスト
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	システム開発技術（テストの技法、テスト評価、システムの導入・受け入れ、運用・保守）・確認テスト
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	ソフトウェア開発手法（ソフトウェア開発モデル、共通フレーム）・確認テスト
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	ソフトウェア開発手法（アジャイルソフトウェア開発）・確認テスト
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	プロジェクトマネジメント（プロジェクトの意義とその目的）・確認テスト
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	プロジェクトマネジメント（プロジェクトのプロセス）・確認テスト
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	プロジェクトマネジメント（10の知識エリア）・確認テスト
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	プロジェクトマネジメント（アローダイアグラム）・確認テスト
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	サービスマネジメント（サービスレベルの合意）・確認テスト
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	サービスマネジメント（サービスマネジメントシステム、サービスレベル管理）・確認テスト
	フリー欄	
	第12回	

	タイトル	サービスマネジメント（サービスデスク、ファシリティマネジメント）・確認テスト
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	システム監査（システム監査の意義とその目的）・確認テスト
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	システム監査（システム監査のプロセス、その他の監査業務）・確認テスト
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	内部統制とITガバナンス・確認テスト
	フリー欄	
授業概要	経済産業省の国家資格「ITパスポート試験」を意識し、特にプロジェクトマネジメントやシステム開発などIT管理（マネジメント系）に関する基礎知識を身に付けていく。またITパスポート試験の公開問題にチャレンジしていく。	
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かし基礎ゼミ七の運営を行う。	
時間外学習	【事前・事後学修】ITパスポート試験の合格に向けて、毎回指定した範囲の確認テストを実施する。テキストやノート等を参照しながらテスト範囲の内容の理解を深める。（所要時間：各回4時間以上）	
テキスト	初回のゼミ時に指示する。例えば、FOM出版「よくわかるマスター 令和6-7年度版 ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集」(2,420円(税込))がある。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ゼミ配属条件は次の3つを条件とする。①「IT概論」と「経営学入門」の2科目を履修済みであること、②学期末にITパスポート試験の受験を行うこと、③ITパスポート試験合格の場合は広報活動に参加すること	
評価方法	各単元の重要事項および確認テストの範囲での重要事項をまとめたノート提出：50%、確認テスト：50%（各確認テストの配点の総合計を満点とする）	
参考文献	ITや経営に関するテキストが図書館に数多く所蔵されています。	
備考	配布資料やテキストなどを毎回必ず持参してください。	

講義科目名称： 専門ゼミ（40810）

授業コード： 40810

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
中川 恵			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	授業テーマ 学習者としての自立を目指す 到達目標 地域貢献活動、及び実践研究報告書の作成を通して、課題発見・解決能力を習得する。	
授業計画	第1回	
	タイトル	実践研究の方法（地域貢献活動の目的・意義、実践研究報告書の書き方）
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	実践研究課題の選択、役割分担
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	【テキスト確認】調べるということ／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	【テキスト確認】文献や資料を調べる／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	【テキスト確認】フィールドワークをする／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	【テキスト確認】リスクを調べる／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	【テキスト確認】データ整理からアウトプットへ／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	実践研究活動構想発表・準備
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	実践研究活動構想発表
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	実践研究活動構想発表・発表を踏まえての軌道修正
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	【テキスト確認】論文とは何か／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	【テキスト確認】論文と科学／活動の進捗報告
	フリー欄	

第13回	
タイトル	【テキスト確認】 主題と対象／活動の進捗報告
フリー欄	
第14回	
タイトル	実践研究報告書・共同執筆部分の全体読み合わせ
フリー欄	
第15回	
タイトル	実践研究報告書・共同執筆部分の全体読み合わせを踏まえての軌道修正
フリー欄	
第16回	
タイトル	【テキスト確認】 はじめての調べ方／活動の進捗報告
フリー欄	
第17回	
タイトル	【テキスト確認】 方法論（調査設計）／活動の進捗報告
フリー欄	
第18回	
タイトル	【テキスト確認】 先行研究と学問体系／活動の進捗報告
フリー欄	
第19回	
タイトル	【テキスト確認】 方法／活動の進捗報告
フリー欄	
第20回	
タイトル	【テキスト確認】 研究計画書とプレゼンテーション／活動の進捗報告
フリー欄	
第21回	
タイトル	【テキスト確認】 構成と文章／活動の進捗報告
フリー欄	
第22回	
タイトル	【テキスト確認】 注記と要約／活動の進捗報告
フリー欄	
第23回	
タイトル	【テキスト確認】 校正と仕上げ／活動の進捗報告
フリー欄	
第24回	
タイトル	成果報告：金山町滞在型実践チーム
フリー欄	
第25回	
タイトル	成果報告：リンゴ農園魅力化チーム
フリー欄	
第26回	
タイトル	成果報告：フードアクセス改善チーム
フリー欄	
第27回	
タイトル	成果報告：教育現場貢献チーム
フリー欄	
第28回	
タイトル	活動の進捗報告
フリー欄	
第29回	

	タイトル	実践報告書の読み合わせと発表
	フリー欄	
	第30回	
	タイトル	実践報告書の読み合わせと発表
	フリー欄	
授業概要	どの地域貢献活動に参加するかを決め、チーム分けをおこないます。前期・後期を通して実践をおこなうとともに、実践研究報告書を執筆します。実践研究報告書は学会報告論文に相当する水準を求めます。背景や活動報告の部分はチームで共同執筆とし、考察は各自で執筆します。	
実務経験及び授業の内容	地域貢献活動は以下の4つです。 1. 山形県最上郡金山町滞在型実践 2. 米沢市・館山地区 りんご農園のさらなる魅力化プロジェクト 3. 米短&栄養大 食料非常事態からの脱却プロジェクト 4. 小・中学校教育現場での貢献活動	
時間外学習	講義時間はグループでの話し合いに優先的に時間を充てます。話し合いではテーマや進捗に即して意見交換をおこないます。資料の検索、読解、実践研究報告書の執筆・推敲などは時間外に実施してください。	
テキスト	必要に応じて資料を配布します	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	実践研究では地域貢献活動と実践研究報告書の執筆が求められます。自立的に時間外学習に取り組めるよう支援します。	
評価方法	地域貢献活動の実際（70％）／実践報告書の内容（30％）	
参考文献	宮内泰介・上田昌文、2020、『実践・自分で調べる技術』岩波新書 小熊英二、2022、『基礎からわかる論文の書き方』講談社現代新書	
備考		

講義科目名称： 専門ゼミ二（40820）

授業コード： 40820

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	ゼミでの知的・人的交流を通して、卒業研究の作成に必要な知識やスキルを習得することができる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	オリエンテーション
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	行動科学概論の復習（文献検索）
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	行動科学概論の復習（統計分析）
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	引用文献の発表
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	引用文献の発表
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	引用文献の発表
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	研究計画の発表
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	研究計画の発表
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	研究計画の発表
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	個別指導（前期）
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	個別指導（前期）
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	個別指導（前期）
	フリー欄	
	第13回	

タイトル	個別指導（前期）
フリー欄	
第14回	
タイトル	個別指導（前期）
フリー欄	
第15回	
タイトル	前期ふりかえり
フリー欄	
第16回	
タイトル	卒論中間提出・第1回添削校正大会
フリー欄	
第17回	
タイトル	個別指導（後期）
フリー欄	
第18回	
タイトル	個別指導（後期）
フリー欄	
第19回	
タイトル	個別指導（後期）
フリー欄	
第20回	
タイトル	個別指導（後期）
フリー欄	
第21回	
タイトル	個別指導（後期）
フリー欄	
第22回	
タイトル	個別指導（後期）
フリー欄	
第23回	
タイトル	個別指導（後期）
フリー欄	
第24回	
タイトル	卒論原稿提出・第2回添削校正大会
フリー欄	
第25回	
タイトル	添削と推敲
フリー欄	
第26回	
タイトル	添削と推敲
フリー欄	
第27回	
タイトル	添削と推敲
フリー欄	
第28回	
タイトル	添削と推敲
フリー欄	
第29回	
タイトル	卒業論文集編集大会

	フリー欄	
	第30回	
	タイトル	後期ふりかえり
	フリー欄	
授業概要	前期はオリエンテーションと復習を行った後、卒業論文の引用文献と研究計画について、順番に各自発表してもらう。後期は卒業論文の中間提出と添削校正を行った後、順番に個別指導を進める。推敲や編集作業を経て、最後に卒業論文集を作り上げる。各自の研究テーマは、政治や社会心理、文化に関するものなど、自由に決めてよい。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。	
テキスト	なし。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	人間や社会に対する好奇心が旺盛で、自主的に卒業研究に取り組み、締切までに卒業論文を確実に提出できる学生を歓迎します。コロナ禍で中断していたゼミ旅行も再開できればと思います。 この授業の履修を希望する学生はゼミ分けアンケートの理由欄に、社会心理学や政治学など、どんな学問分野に関心があるかと、どんなテーマで卒論をまとめたいかについて書いてください。質問や相談がある場合は亀ヶ谷研までお越しくください。過去のゼミ卒論集も亀ヶ谷研で読むことができますので、卒論テーマ選びの参考にしてください。	
評価方法	発表・課題（70％）、授業への参加度（30％）	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 専門ゼミ 四（40840）

授業コード： 40840

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
山田 忍			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	「専門ゼミ四」においては、卒業論文の作成を進めていく。関連文献及びデータの収集並びに整理の仕方、実態調査を行う場合の方法等を学習する。具体的な到達目標は、次の通りである。①各自の問題意識の論理的な内容について理解し、分析できる。②他者に対してわかりやすいプレゼンテーションを実施することができる。③コミュニケーション力を高め、課題の提案・問題解決力等の能力を伸ばすことができる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	研究・調査の方法を学ぶ
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	研究の具体例（１）：具体的調査方法を学ぶ
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	研究の具体例（２）：資料検索・利用方法を学ぶ
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	研究の具体例（３）：課題に適合した分析手法を学ぶ
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	卒業研究テーマの決定（１）：①課題設定及び背景、②論文構成案の報告
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	卒業研究テーマの決定（２）：①課題設定及び背景、②論文構成案の報告
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	卒業研究テーマの決定（３）：①課題設定及び背景、②論文構成案の報告
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	卒業研究テーマの決定（４）：①課題設定及び背景、②論文構成案の報告
フリー欄		
第10回		
タイトル	関連資料の収集・整理（１）：卒業研究テーマに関する関連資料の提示	
フリー欄		
第11回		

タイトル	関連資料の収集・整理（２）：卒業研究テーマに関する関連資料の提示
フリー欄	
第12回	
タイトル	関連資料の収集・整理（３）：卒業研究テーマに関する関連資料の提示
フリー欄	
第13回	
タイトル	関連資料の収集・整理（４）：卒業研究テーマに関する関連資料の提示
フリー欄	
第14回	
タイトル	ヒアリング調査及びアンケート調査の集計結果（１）
フリー欄	
第15回	
タイトル	ヒアリング調査及びアンケート調査の集計結果（２）
フリー欄	
第16回	
タイトル	ヒアリング調査及びアンケート調査の集計結果（３）
フリー欄	
第17回	
タイトル	ヒアリング調査及びアンケート調査の集計結果（４）
フリー欄	
第18回	
タイトル	ヒアリング調査及びアンケート調査結果の解析（１）
フリー欄	
第19回	
タイトル	ヒアリング調査及びアンケート調査結果の解析（２）
フリー欄	
第20回	
タイトル	ヒアリング調査及びアンケート調査結果の解析（３）
フリー欄	
第21回	
タイトル	ヒアリング調査及びアンケート調査結果の解析（４）
フリー欄	
第22回	
タイトル	卒業論文の作成（１）：卒業論文の作成経過を報告する
フリー欄	
第23回	
タイトル	卒業論文の作成（２）：卒業論文の作成経過を報告する
フリー欄	
第24回	
タイトル	卒業論文の作成（３）：卒業論文の作成経過を報告する
フリー欄	
第25回	
タイトル	卒業論文の作成（４）：卒業論文の作成経過を報告する
フリー欄	
第26回	
タイトル	プレゼンテーションの準備（１）
フリー欄	
第27回	
タイトル	プレゼンテーションの準備（２）

	フリー欄	
	第28回	
	タイトル	プレゼンテーションの準備（3）
	フリー欄	
	第29回	
	タイトル	プレゼンテーションの準備（4）
	フリー欄	
	第30回	
	タイトル	成果発表会
	フリー欄	
授業概要	「専門ゼミ四」においては、①卒業論文のテーマ決定。②関連資料の収集。③ヒアリング調査及びアンケート調査項目の設計。④ヒアリング調査及びアンケート調査の実施。⑤研究成果についてのプレゼンテーションまでを目標とする。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	授業後、参考文献等を利用し復習する。	
テキスト	資料を適宜配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	卒業論文は、自分の興味のあるテーマについて、自分自身で疑問を持ち、その疑問について分析・検証しながらまとめていきます。卒業論文の作成に際しては、自分で調べ、行動し、文章をまとめる必要がありますが、オリジナリティを表現できる貴重な機会です。これまで本学で得た様々な知識を基盤に、新たな自分の発見のために真剣に取り組んでみてください。	
評価方法	各回の「演習」に対する報告及び質疑討論の内容を評価（60％）、卒業論文（40％）、合計：100％で評価する。	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 専門ゼミ 五（40850）

授業コード： 40850

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	本授業の到達目標は以下となります： 1．イラストレーション／映像・写真／デジタルアート／メディアアート／サブカルチャーなどの分野の作品研究を通して現代のメディア表現について理解し、その概要や特性・特徴を記述できる。 2．上述の作品研究によって得た知識に立脚した自らの作品制作を完遂できる表現力を身につける。 3．卒業研究・制作作品展を計画・運営することで、表現力に付随した企画・広報ができる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	文献講読(A)（映像表現）
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	ワークショップ(A1)
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	ワークショップ(A2)
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	文献講読(B)（イラストレーション）
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	ワークショップ(B1)
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	ワークショップ(B2)
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	文献講読(C)（受講生の研究対象に応じて決定する）
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	ワークショップ(C1)
	フリー欄	
	第10回	
タイトル	ワークショップ(C2)	
フリー欄		
第11回		
タイトル	文献講読(D)（受講生の研究対象に応じて決定する）	
フリー欄		
第12回		
タイトル	ワークショップ(D1)	

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	ワークショップ(D2)
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	作品研究論文の構想発表(1)
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	夏季の課題と習作の構想・計画
	フリー欄	
	第16回	
	タイトル	夏季の課題と習作のプレゼンテーションと講評(1)
	フリー欄	
	第17回	
	タイトル	夏季の課題と習作のプレゼンテーションと講評(2)
	フリー欄	
	第18回	
	タイトル	作品研究に関するブックレビュー(1)
	フリー欄	
	第19回	
	タイトル	作品研究に関するブックレビュー(2)
	フリー欄	
	第20回	
	タイトル	作品研究論文の構想発表(2)
	フリー欄	
	第21回	
	タイトル	制作作品の構想発表
	フリー欄	
	第22回	
	タイトル	文献講読(E)(受講生の研究対象に応じて決定する)
	フリー欄	
	第23回	
	タイトル	ワークショップ(E1)
	フリー欄	
	第24回	
	タイトル	ワークショップ(E2)
	フリー欄	
	第25回	
	タイトル	作品研究論文の経過報告(1)
	フリー欄	
	第26回	
	タイトル	制作作品の経過報告(1)
	フリー欄	
	第27回	
	タイトル	作品研究論文の経過報告(2)
	フリー欄	
	第28回	
	タイトル	制作作品の経過報告(2)
	フリー欄	

	第29回	
	タイトル	制作作品の提出と講評
	フリー欄	
	第30回	
	タイトル	卒業制作作品展の準備、作品研究論文の提出
	フリー欄	
授業概要	卒業研究として研究論文の執筆、あるいは作品の制作を行います。映像・イラストレーション作品制作やデジタル音楽制作、あるいはいわゆるサブカルチャー研究を活動範疇とし、研究と制作の両方について実践的に学びます。前期はメディア文化史に関する文献講読、ならびに情報デザインと表現技法についてのワークショップを行います。夏期休業中には各人の興味に応じた課題（論評・書評、写真・イラスト等の習作、その他応相談）の提出を課します。後期には各人の研究論文、あるいは卒業制作作品について、定期的に報告発表をしてもらいながらその最終的な完成を目指します。 「メディア文化論」「メディア表現論」「視覚文化論」のうち、少なくとも2科目を既履修であることが望ましいです。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	研究論文と作品制作のどちらかを最終的な成果物とするかは受講生の志向次第ですが、いずれにせよ授業のための発表や調査、ならびに習作課題を定期的に提出してもらいます。また研究室の機関誌を年数回発行しますので、誌上で批評・習作・エッセイ・レビューなどを恒常的に発表してもらうことになります。	
テキスト	資料プリントを適宜配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	作品研究に関しては日頃からの作品鑑賞、作品制作に際しては日々の修練が求められます。またワークショップ形式での課題演習や集団制作などを頻繁に取り入れますので、デジタル加工技術の習得、主体性や創造性／想像力は勿論のこと、他の受講生との協調性・協働性も大きく問われます。	
評価方法	全体としての評価の比重は、授業での発表報告とその内容50%、研究論文あるいは制作作品の提出・評価50%とします。いずれの場合にせよ卒業研究・制作作品展において成果を発表（作品展示、あるいはポスター発表）してもらうことになります。研究論文と作品制作の両方を行なっても構いません。	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 専門ゼミ七（40870）

授業コード： 40870

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
西川 友子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義・演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】情報・地理情報・空間情報に関するテーマに対して、自ら取り組み、考え、解決し、成果を出す。 【到達目標】実社会において必要な「与えられた仕事に対して、主体的に取り組み、考え、解決し、結果を出す力」を活用できる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス、卒業研究の進め方について
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	卒業研究のテーマの選定
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	卒業研究のテーマの選定
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	パラグラフライティング①：情報の整理の仕方
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	パラグラフライティング②：メインセンテンス
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	パラグラフライティング③：サポートセンテンス
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	パラグラフライティング④：メインセンテンスとサポートセンテンスの基礎練習
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	パラグラフライティング⑤：メインセンテンスとサポートセンテンスの基礎練習
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	パラグラフライティング⑥：メインセンテンスとサポートセンテンスの基礎練習
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	パラグラフライティング⑥：メインセンテンスとサポートセンテンスの基礎練習
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	パラグラフライティング⑦：メインセンテンスとサポートセンテンスの基礎練習
	フリー欄	

第12回	
タイトル	パラグラフライティング⑧：メインセンテンスとサポートセンテンスの基礎練習
フリー欄	
第13回	
タイトル	パラグラフライティング⑨：文の配列と接続表現
フリー欄	
第14回	
タイトル	パラグラフライティング⑩：文章の全体像と転換点を示す
フリー欄	
第15回	
タイトル	全体報告会
フリー欄	
第16回	
タイトル	卒業論文執筆について
フリー欄	
第17回	
タイトル	構成の企画
フリー欄	
第18回	
タイトル	アウトライン構成
フリー欄	
第19回	
タイトル	原稿執筆、全体相談会
フリー欄	
第20回	
タイトル	原稿執筆、全体相談会
フリー欄	
第21回	
タイトル	原稿執筆、全体相談会
フリー欄	
第22回	
タイトル	原稿執筆、全体相談会
フリー欄	
第23回	
タイトル	原稿執筆、全体相談会
フリー欄	
第24回	
タイトル	原稿執筆、全体相談会
フリー欄	
第25回	
タイトル	原稿提出、全体相談会
フリー欄	
第26回	
タイトル	全体の推敲と添削
フリー欄	
第27回	
タイトル	全体の推敲と添削
フリー欄	
第28回	

	タイトル	全体の推敲と添削
	フリー欄	
	第29回	
	タイトル	全体の推敲と添削
	フリー欄	
	第30回	
	タイトル	完成版卒業論文提出
	フリー欄	卒業論文、プレゼンテーション、その他指定された成果物の提出。提出日時は厳守。
授業概要	卒業研究のテーマとして①地域に関する情報・地理情報・空間情報の分析、②教育データの分析を取り扱う。	
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かし専門ゼミ七の運営を行う。	
時間外学習	ゼミで学んだ内容を深く理解するには時間外学習が不可欠である。【事前・事後学修】として文献研究や報告会発表用のスライド資料の作成準備などを自主的に進めておくことはもちろんのこと、ゼミや卒業研究で必要な各種成果物の作成は指定された期日までに取り組み提出することが挙げられる。	
テキスト	松浦年男・田村早苗「日本語パラグラフ・ライティング入門：読み手を迷わせないための書く技術」研究社、1,650円（税込）、978-4-327-38487-6	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	卒業研究のテーマに積極的かつ主体的に取り組む必要がある。各自で研究を計画的に進め、卒業研究の進捗状況を定期的に報告してほしい。テキストは必ず購入してください。	
評価方法	参考文献の発表、進捗状況の報告や全体報告会での報告を40%、卒業研究に関わる成果物など(卒業論文、報告会での報告資料、その他指定された成果物)を60%として評価する。 卒業論文、プレゼンテーション、その他指定された成果物の提出締め切り日時は厳守。	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 専門ゼミ八(40880)

授業コード： 40880

英文科目名称： ー

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
石崎 毅			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	授業テーマ 学習者としての自立を目指す。 到達目標 地域貢献活動，及び実践研究報告書の作成を通して，課題発見・解決能力を習得する。	
授業計画	第1回	
	タイトル	実践研究の方法（地域貢献活動の目的・意義，実践研究報告書の書き方）
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	実践研究課題の選択，役割分担
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	【テキスト確認】調べるということ／活動の進捗報告）
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	【テキスト確認】文献や資料を調べる／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	【テキスト確認】フィールドワークをする／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	【テキスト確認】リスクを調べる／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	【テキスト確認】データ整理からアウトプットへ／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	実践研究活動構想発表・準備
	フリー欄	
第9回		
タイトル	実践研究活動構想発表	
フリー欄		
第10回		
タイトル	実践研究活動構想発表・発表をふまえての軌道修正	
フリー欄		
第11回		
タイトル	【テキスト確認】論文とは何か／活動の進捗報告	
フリー欄		
第12回		
タイトル	【テキスト確認】論文と科学／活動の進捗報告	

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	【テキスト確認】 主題と対象／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	実践研究報告書・共同執筆部分の全体読み合わせ
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	実践研究報告書・共同執筆部分の全体読み合わせを踏まえての軌道修正
	フリー欄	
	第16回	
	タイトル	【テキスト確認】 はじめての調べ方／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第17回	
	タイトル	【テキスト確認】 方法論（調査設計）／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第18回	
	タイトル	【テキスト確認】 先行研究と学問体系／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第19回	
	タイトル	【テキスト確認】 方法／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第20回	
	タイトル	【テキスト確認】 研究計画書とプレゼンテーション／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第21回	
	タイトル	【テキスト確認】 構成と文章／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第22回	
	タイトル	【テキスト確認】 注記と要約／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第23回	
	タイトル	【テキスト確認】 校正と仕上げ／活動の進捗報告
	フリー欄	
	第24回	
	タイトル	成果報告：金山町滞在型実践チーム
	フリー欄	
	第25回	
	タイトル	成果報告：りんご農園魅力化チーム
	フリー欄	
	第26回	
	タイトル	成果報告：フードアクセス改善チーム
	フリー欄	
	第27回	
	タイトル	成果報告：教育現場貢献チーム
	フリー欄	
	第28回	
	タイトル	活動の進捗報告
	フリー欄	

	第29回	
	タイトル	実践研究報告書の読み合わせと発表
	フリー欄	
	第30回	
	タイトル	実践研究報告書の読み合わせと発表
	フリー欄	
授業概要	どの地域貢献活動に参加するかを決め、チーム分けを行います。前期・後期を通して実践を行うとともに、実践研究報告書を執筆します。実践研究報告書は学会報告論文に相当する水準を求めます。背景や活動報告の部分はチームで共同執筆とし、考察は各自で執筆します。	
実務経験及び授業の内容	地域貢献活動は以下の4つです。 1. 山形県最上郡金山町滞在型実践 2. 米沢市館山地区りんご農園のさらなる魅力化プロジェクト 3. 米短&栄養大、食料非常事態からの脱却プロジェクト 4. 小中学校教育現場での貢献活動	
時間外学習	講義時間はグループでの話し合いに優先的に時間を充てます。話し合いではテーマの進捗に即して意見交換を行います。資料の検索、読解、実践研究報告書の執筆・推敲などは時間外に実施してください。	
テキスト	必要に応じて資料を配付します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	実践研究では、地域貢献活動と実践研究報告書の執筆が求められます。自立的に時間外学習に取り組めるよう支援をします。	
評価方法	地域貢献活動の実際（70%） 実践研究報告書の内容（30%）	
参考文献	宮内泰介・上田昌文，2020，『実践・自分で調べる技術』岩波新書 小熊英二，2022，『基礎からわかる論文の書き方』講談社現代新書	
備考		

講義科目名称： 専門ゼミ九（40890）

授業コード： 40890

英文科目名称： ー

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
村井 友樹			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	論文の作成に必要な知識や能力を習得し、卒業研究に取り組む。到達目標は以下の三点である。 1) 課題を発見することができる。 2) 課題の解決に向けて主体的に行動することができる。 3) 成果を分かりやすく伝えることができる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	オリエンテーション
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	研究方法を学ぶ
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	研究方法を学ぶ
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	関連論文の輪読
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	関連論文の輪読
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	関連論文の輪読
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	関連論文の輪読
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	研究テーマの検討
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	研究テーマの設定
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	研究計画の作成
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	研究計画の作成
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	研究計画の検討
	フリー欄	

	第13回	
	タイトル	研究計画の検討
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	進捗状況の報告
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	進捗状況の報告
	フリー欄	
	第16回	
	タイトル	研究計画の再考
	フリー欄	
	第17回	
	タイトル	研究の遂行
	フリー欄	
	第18回	
	タイトル	研究の遂行
	フリー欄	
	第19回	
	タイトル	研究の遂行
	フリー欄	
	第20回	
	タイトル	研究の遂行
	フリー欄	
	第21回	
	タイトル	進捗状況の報告
	フリー欄	
	第22回	
	タイトル	進捗状況の報告
	フリー欄	
	第23回	
	タイトル	論文作成
	フリー欄	
	第24回	
	タイトル	論文作成
	フリー欄	
	第25回	
	タイトル	論文作成
	フリー欄	
	第26回	
	タイトル	論文作成
	フリー欄	
	第27回	
	タイトル	最終発表準備
	フリー欄	
	第28回	
	タイトル	最終発表準備
	フリー欄	
	第29回	

	タイトル	最終報告
	フリー欄	
	第30回	
	タイトル	最終報告
	フリー欄	
授業概要	スポーツや健康をテーマとして卒業研究に取り組む。前期は研究方法を学び、テーマを決めて研究計画を作成する。後期は研究を遂行し、論文を執筆する。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	各自のテーマに関連する書籍や論文を読むこと。	
テキスト	適宜資料を配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	スポーツには「する人」だけでなく「観る人」「支える人」が存在します。「する人」においてもスポーツの得意、不得意などは関係ありません。少しでもスポーツや健康に興味関心がある学生を歓迎します。	
評価方法	発表・報告70%、授業参加度（主体的・積極的）30%	
参考文献		
備考		